

豊川市食育に関するアンケート調査の分析と今後の方向性

豊川市では令和元年度に第3次豊川市食育推進計画（以下、「第3次計画」）の策定を予定している。第3次計画を策定するにあたり、市民の意見を反映させるため、市民2,000人を対象にアンケート調査を実施した。（回収数：871人）

本報告書では、アンケート調査結果の分析評価を行うとともに、将来目標の方向性について整理する。なお、平成26年の第2次豊川市食育推進計画（以下、「第2次計画」）策定時のアンケート調査結果と比較することによって、市民の意識の変化を確認し、第3次計画策定のための基礎資料とする。以下に平成26年度に平成31年度までに達成すべき具体的な数値目標を立てた設問における、割合の推移を示す。

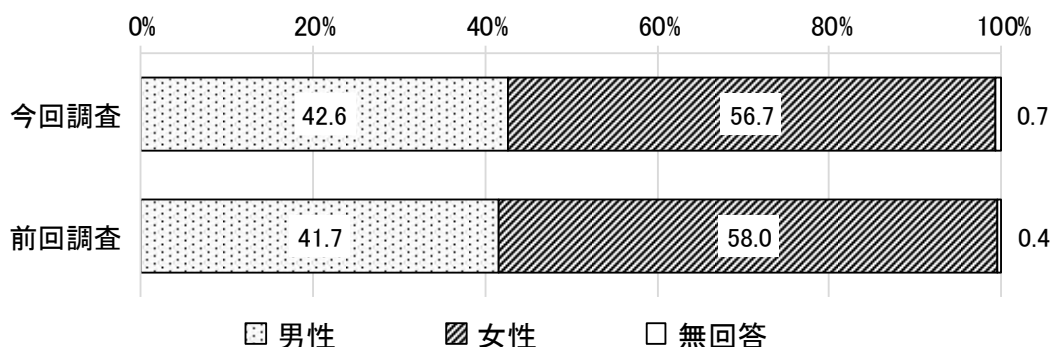
項目	H26年	目標値	R1年
食育全般			
食育に関心を持っている人の割合（一般）	74.7%	90.0%	70.9%
基本目標1 人と人がつながる食育の推進			
夕食を家族と一緒に食べる人の割合	76.8%	—	74.4%
郷土料理・伝統料理（行事食を含む）を知っている人の割合	30.9%	40.0%	24.6%
基本目標2 健康につながる食育の推進			
朝食を毎日食べている人の割合	87.8%	95.0%	84.2%
栄養バランス等に配慮した食生活を送っている人の割合	64.3%	70.0%	57.3%
基本目標3 地域につながる食育の推進			
豊川市産・県内産を意識して農産物を購入している人の割合	34.2%	50.0%	29.9%
農林漁業の体験活動をしたことがある人の割合	54.8%	70.0%	55.6%
学校給食における豊川市産・県内産農産物の年間使用割合	48.1%	50.0%	44.0% (H30年度)
基本目標4 エコライフにつながる食育の推進			
作りすぎない・食べ残さないように配慮している人の割合	57.2%	70.0%	59.9%

豊川市食育に関するアンケート調査

対象者基本情報

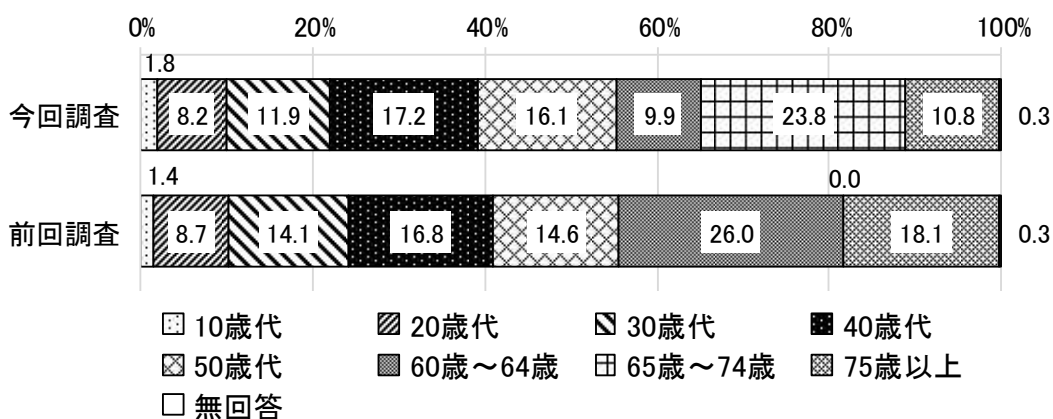
問1 あなたの性別を教えてください。

性別は「男性」が42.6%、「女性」が56.7%となっている。前回調査から大きな変化はみられない。



問2 あなたの年代を教えてください。

年代は「65歳～74歳」が23.8%、「40歳代」が17.2%、「50歳代」が16.1%となっている。前回調査から大きな変化はみられない。



※前回調査では60歳以上の年齢区分が「60歳代」「70歳以上」となっていた。そのため、上記の前回調査のグラフは「60歳代」を「60歳～64歳」、「70歳以上」を「75歳以上」に読み替えて示しており、「60歳代」の割合は26.0%、「70歳以上」の割合は18.1%である。

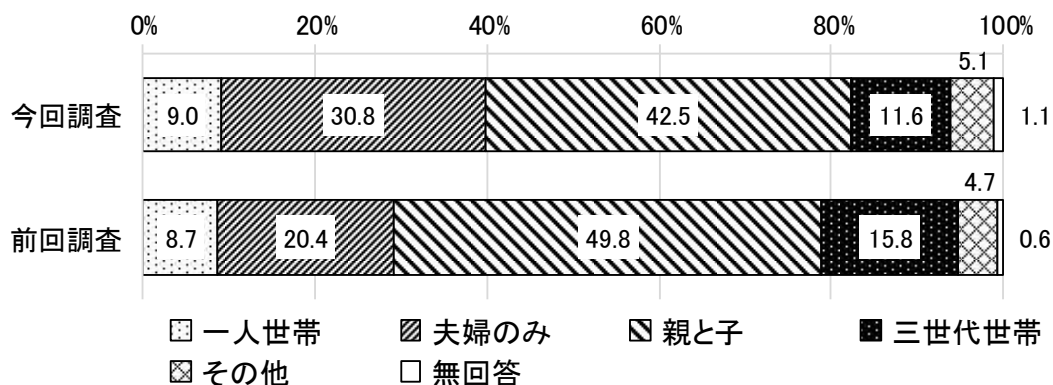
【年代別回答者数】

年代別回答者数をみると、「65歳～74歳」が207人、「40歳代」が150人、「50歳代」が140人となっている。

総数	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代
871人	16人	71人	104人	150人	140人
	60歳～64歳	65歳～74歳	75歳以上	無回答	
	86人	207人	94人	3人	

問3 あなたの家族構成を教えてください。

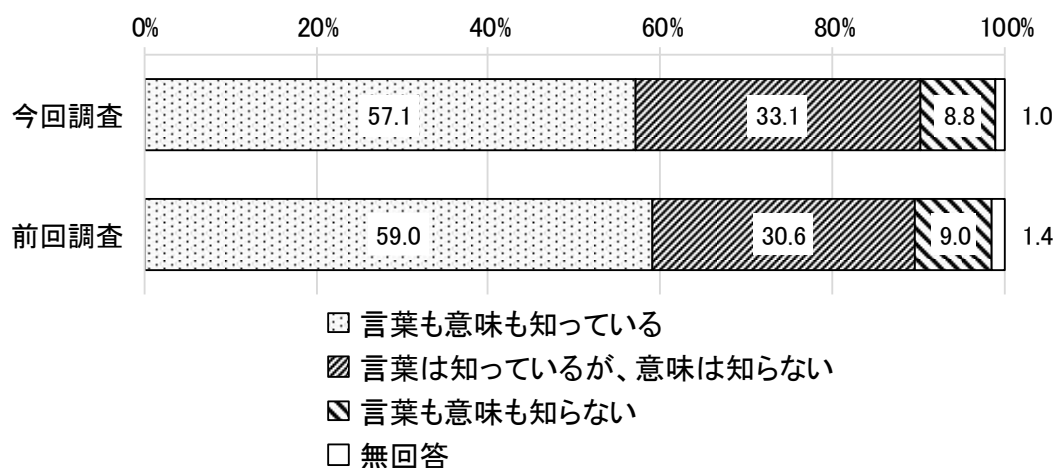
家族構成は「親と子」が42.5%、「夫婦のみ」が30.8%、「三世代世帯」が11.6%となっている。前回調査と比較すると、「親と子」「三世代世帯」の割合が減少した一方で、「夫婦のみ」がおよそ10ポイント増加している。



基本目標1 人と人がつながる食育の推進

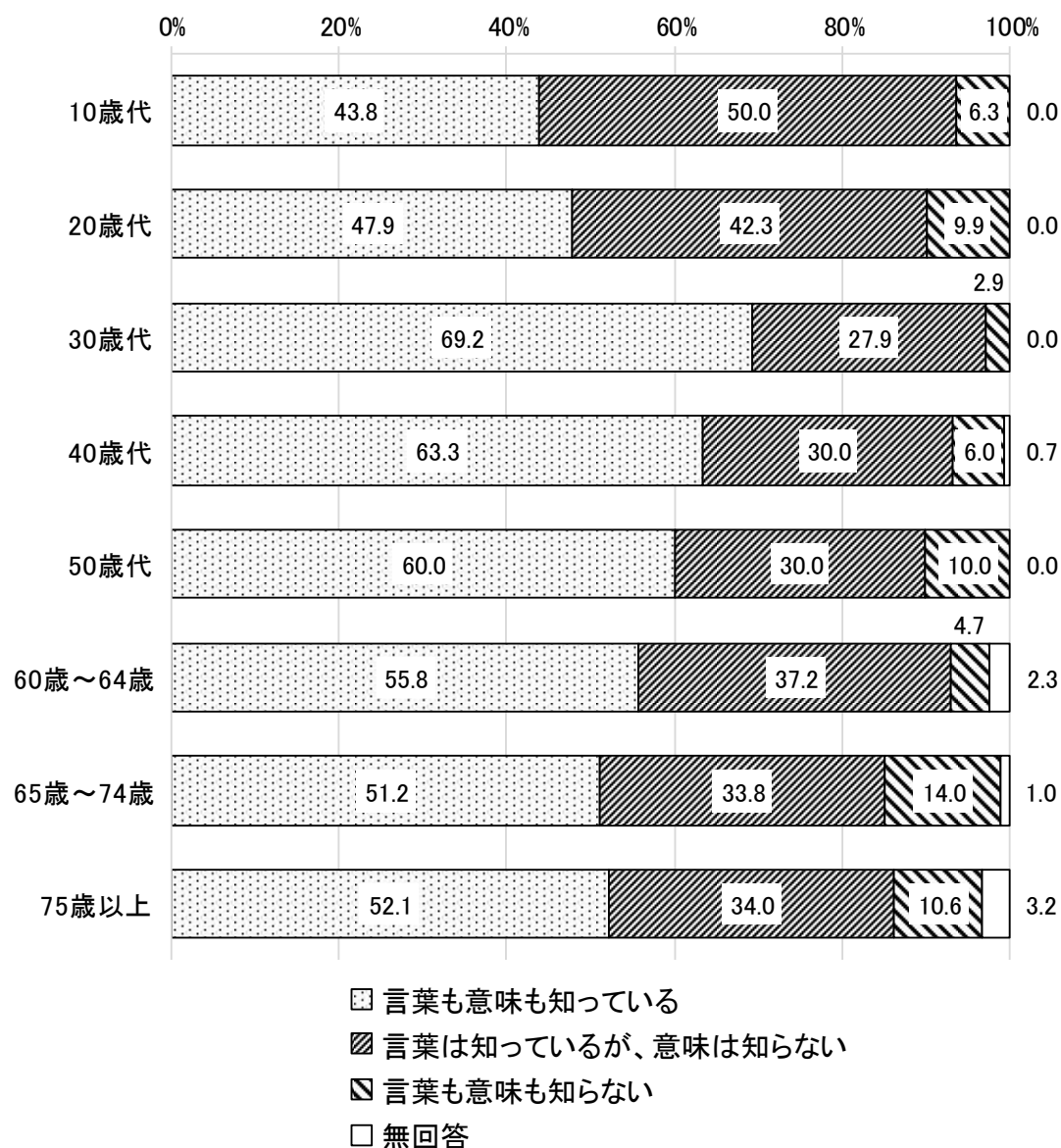
問4 「食育」という言葉を知っていますか。

「食育」という言葉を知っている人は、90.2%となっている。また、意味まで知っている人は57.1%となっている。前回調査では、言葉を知っている人が89.6%、意味まで知っている人が59.0%であり、おおむね横ばいで推移している。第1次計画策定時から意味まで知っている人は、5割台を推移しているため、「食育」の認知度の向上に向けて施策の充実の検討が必要となる。



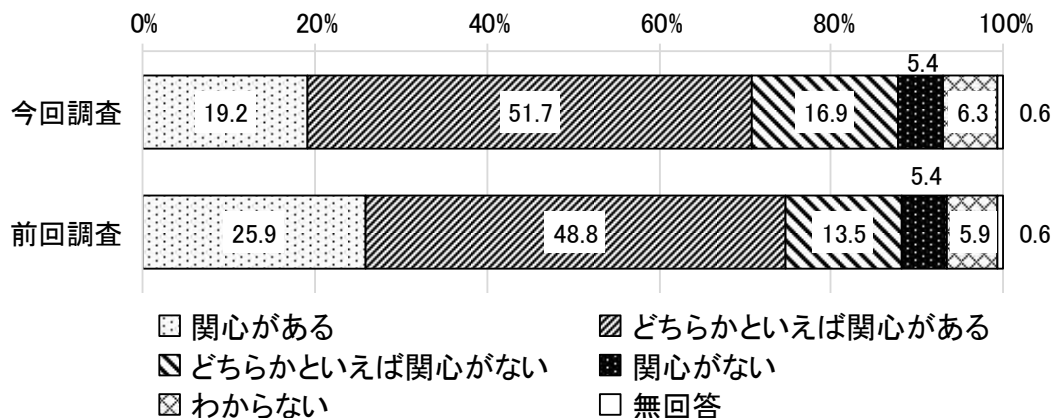
【年代別にみる「食育」という言葉の認知度】

30 歳代から 50 歳代では、「食育」という言葉の意味まで知っている人の割合がいずれも 6 割以上と高くなっている。一方で、10 歳代及び 20 歳代では 5 割未満となっており、若い世代への周知が重要となる。



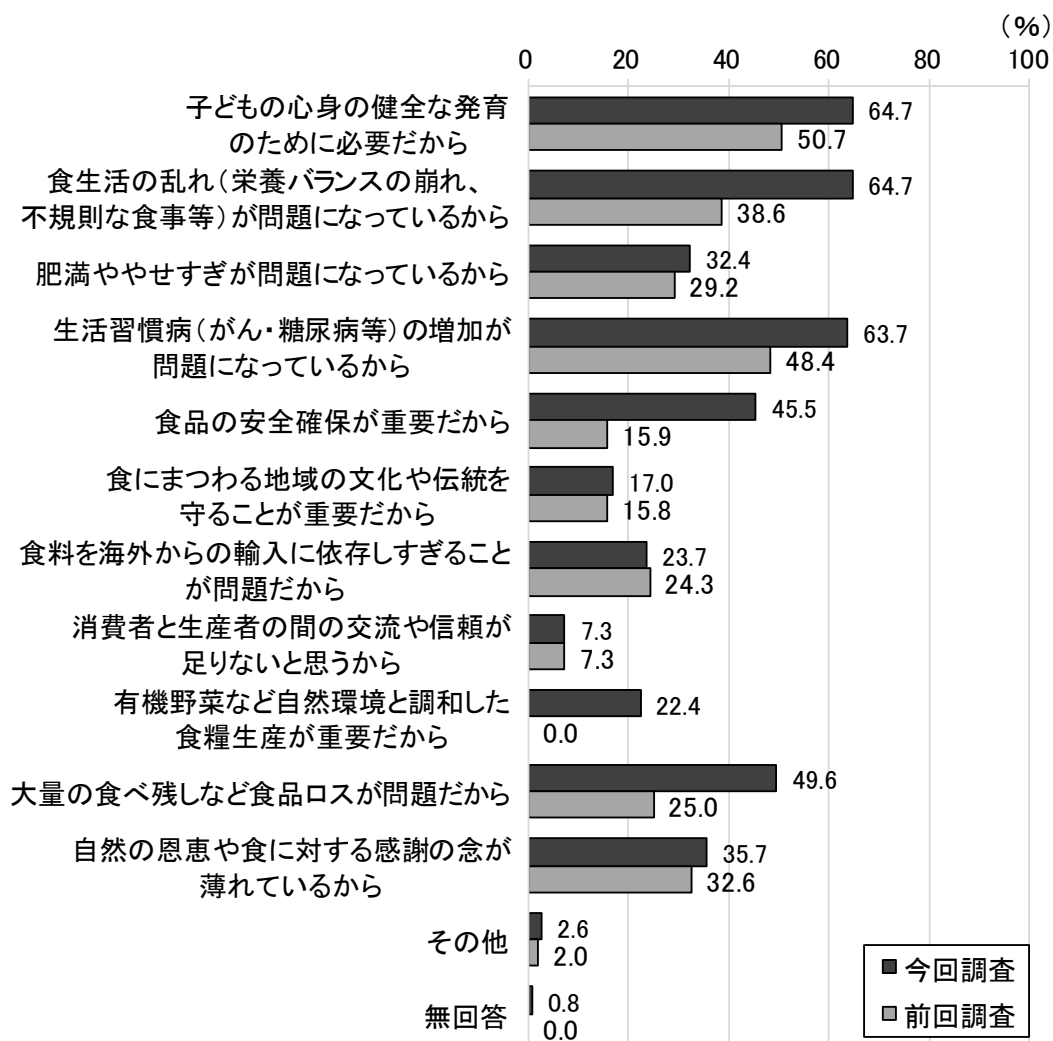
問5 「食育」に関心がありますか。

食育に関心のある人の割合（「関心がある」「どちらかといえば関心がある」の合計）は70.9%となっており、前回調査の74.7%から減少している。食育に関心を持っている人の割合は数値目標が設定され、目標値が90.0%とされていたが、その値は第1次豊川市食育推進計画（以下、「第1次計画」）策定時からこれまでに7割台前半で推移しているため、数値目標の達成には施策の一層の充実や新たな施策の検討が求められる。



問6 問5で「1. 関心がある」「2. どちらかといえば関心がある」と回答した人におたずねします。「食育」に関心がある理由は何ですか。

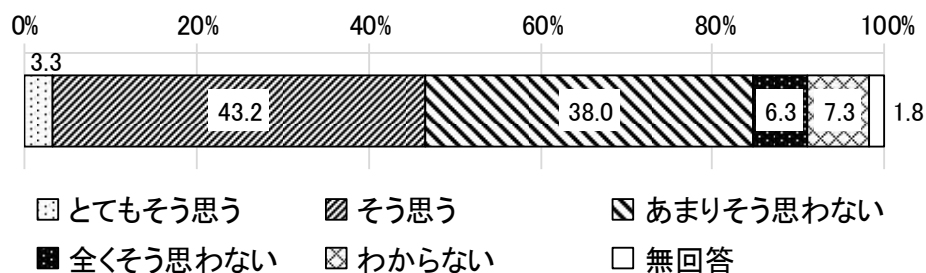
食育に関心がある理由として、「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」「食生活の乱れ（栄養バランスの崩れ、不規則な食事等）が問題になっているから」が64.7%で最も高くなっている。



※「有機野菜など自然環境と調和した食糧生産が重要だから」は今回調査から追加された選択肢となっている。

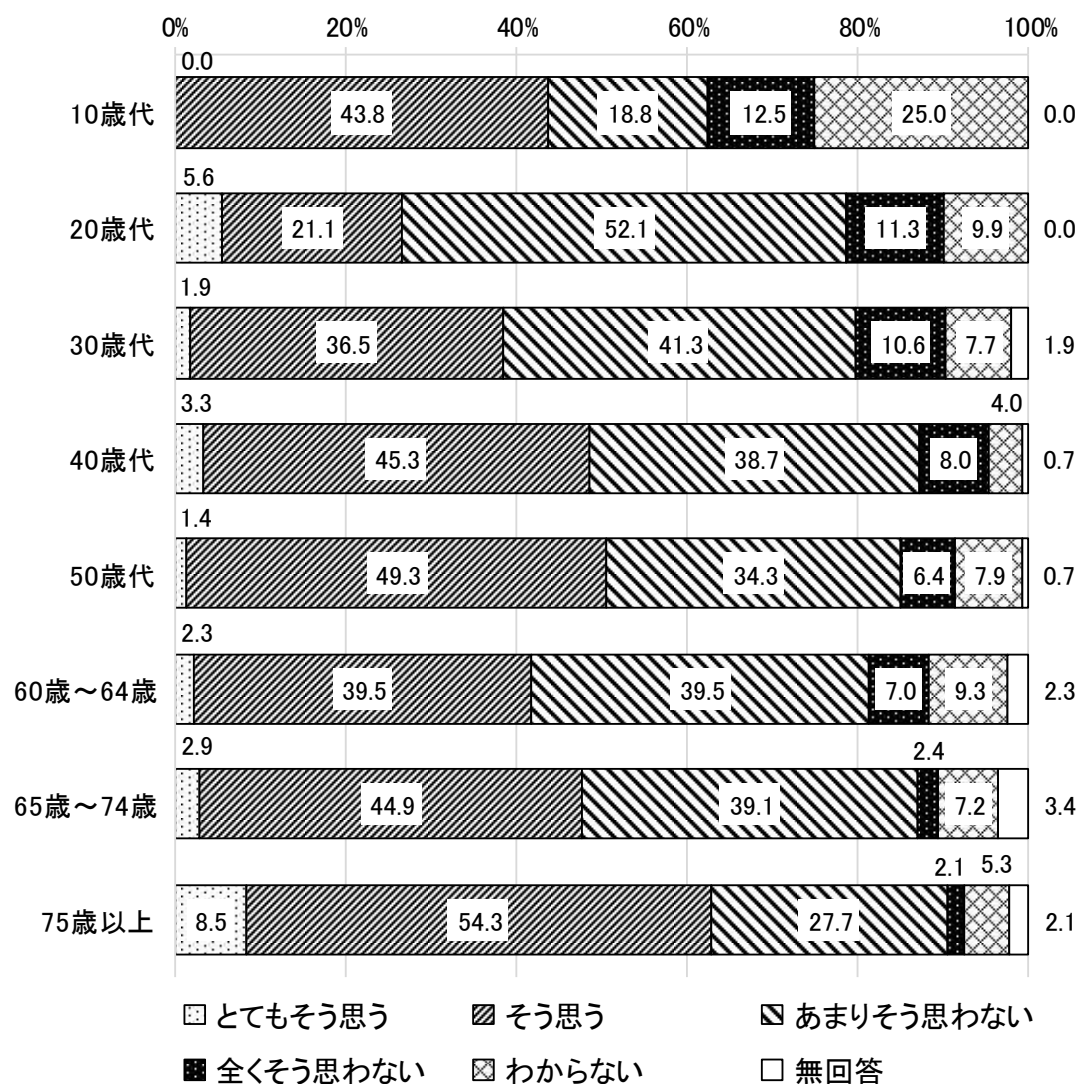
問7 ふだんの生活で「食育」を実践していると思いますか。

食生活を実践していると思う人の割合（「とてもそう思う」「そう思う」の合計）は46.5%となっている。食育へ関心を示している人に比べ、実践している人は少なくなっている。



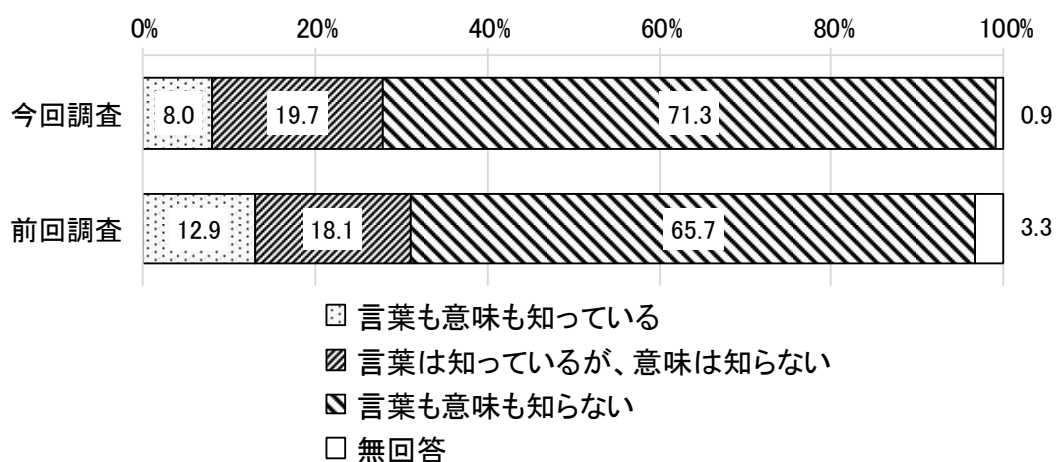
【年代別にみる「食育」の実践状況】

食生活を実践していると思う人の割合は、75 歳以上で最も高く 62.8%となっている。一方で、20 歳代では 26.7%と年代別で最も低い状況である。また、30 歳代も 38.4%と低くなっており、20 歳代や 30 歳代といった若い世代への対応が必要となる。



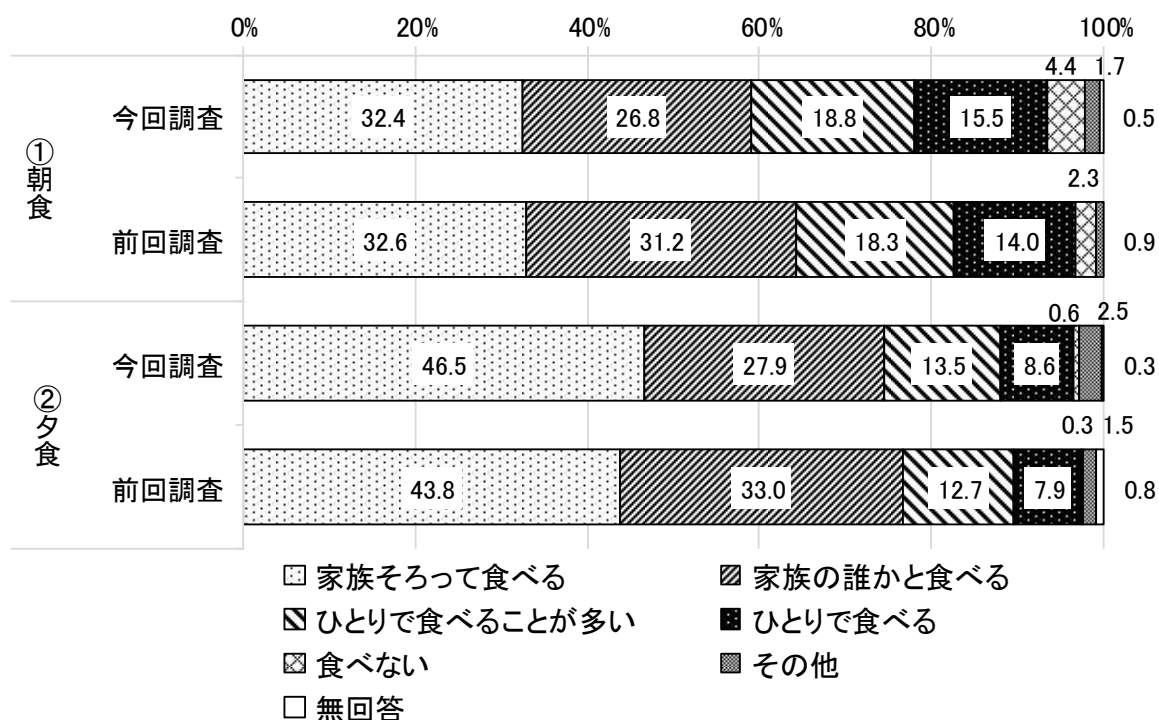
問 12 豊川市では、毎月 19 日を「とよかわ食育の日」とし、毎月の庁内放送や市のイベントを通じて普及啓発しています。毎月 19 日を「とよかわ食育の日」としていることはご存知ですか。

毎月 19 日を「とよかわ食育の日」としていることを知っている人は、27.7%となっている。また、意味まで知っている人は 8.0%となっている。前回調査では、言葉を知っている人が 31.0%、意味まで知っている人が 12.9%であり、いずれも減少している。言葉の認知度は未だ低い状況であるため、「とよかわ食育の日」の周知徹底が求められる。



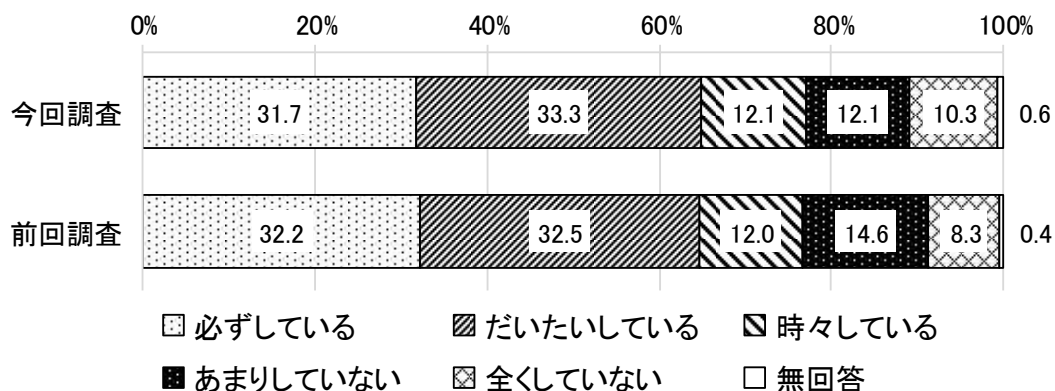
問 13 ふだん家族と食事をしていますか。

家族そろって食事をする機会をみると朝食では 32.4%であり、夕食では 46.5%となっており、いずれも前回調査からおおむね横ばいで推移している。孤食（「ひとりで食べることが多い」「ひとりで食べる」の合計）についても同様に、前回調査から大きな変化はみられないため、第 2 次計画で展開してきた共食の啓発などの施策の強化の検討が必要である。



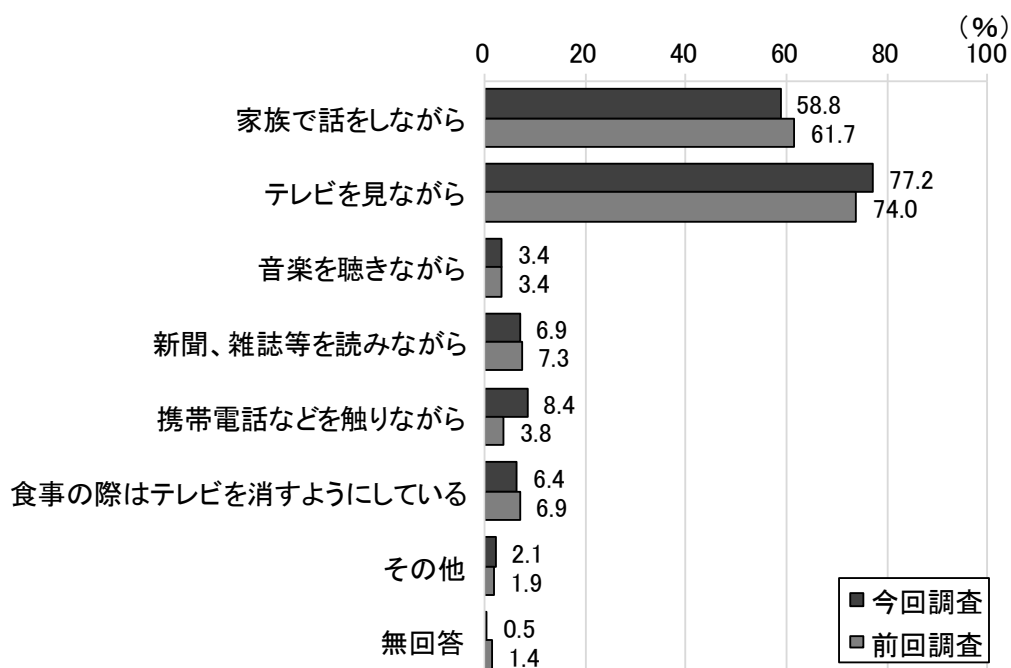
問 14 食事の際に「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをしていますか。

食事の際にあいさつをしている人の割合（「必ずしている」「だいたいしている」「時々している」の合計）は 77.1% となっており、前回調査の 76.7% からおおむね横ばいで推移している。



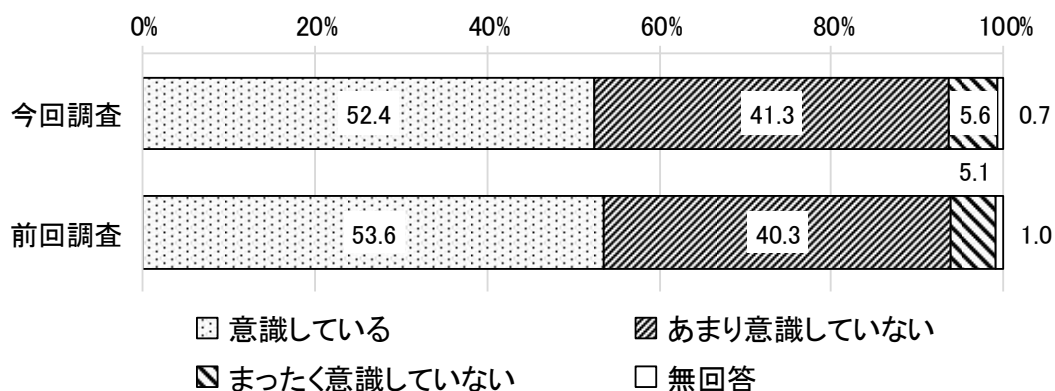
問 15 何をしながら食事をしていますか。

食事をする際に「テレビを見ながら」が 77.2% で最も高く、ついで「家族で話をしながら」が 58.8% となっている。前回調査と比較すると、「家族で話をしながら」が減少している一方で、「テレビを見ながら」や「携帯電話などを触りながら」が増加している。



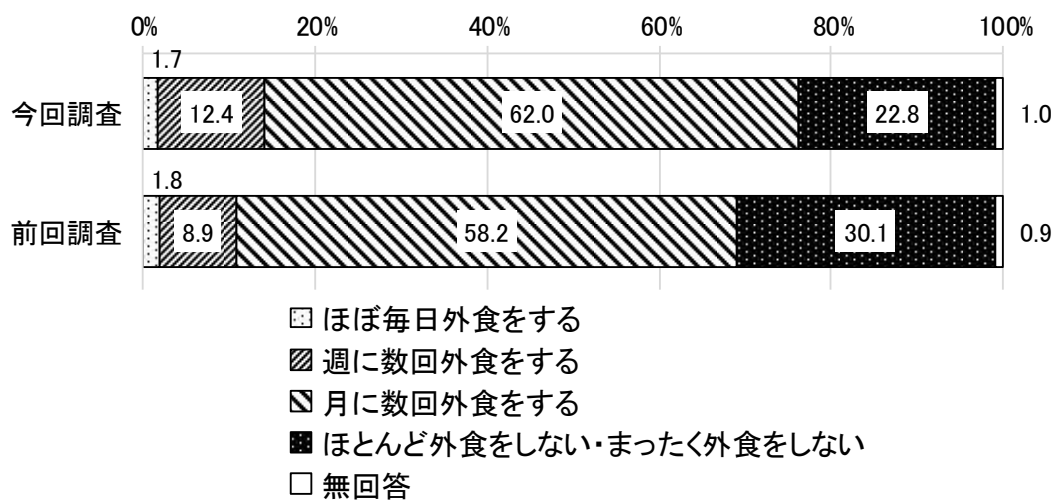
問 16 食事に関するマナー(箸の使い方や食べ方など)に気をつけていますか。

食事に関するマナーに気をつけている人の割合は 52.4%となっており、前回調査の 53.6%からおおむね横ばいで推移している。第 2 次計画では家庭教育支援の充実等を通して、食事マナーの取得に努めてきたが、大きな変化はみられない。そのため、施策の強化について検討が必要である。



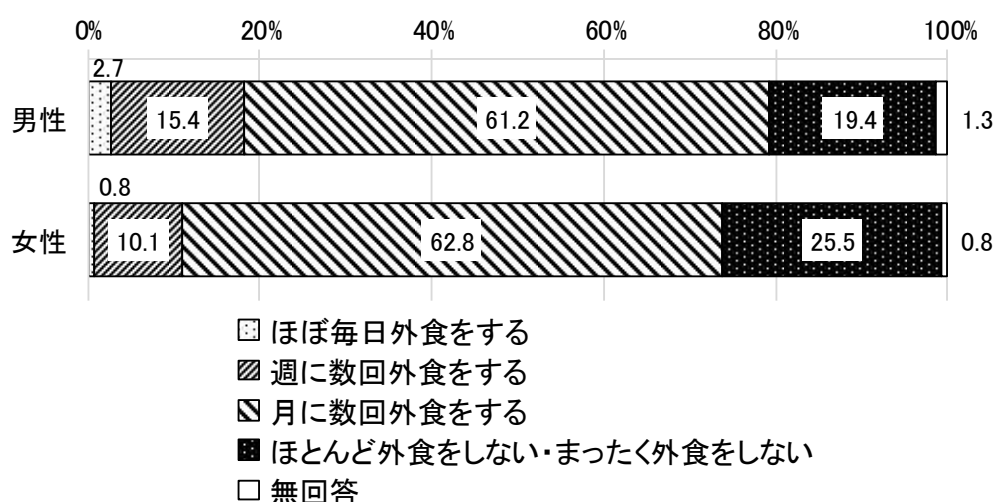
問 17 ふだんどのくらいの割合で外食をしますか。

外食をする頻度は「月に数回外食をする」が 62.0%で最も高くなっている。前回調査と比較すると、「ほとんど外食をしない・まったく外食をしない」が減少している一方で、外食をする人の割合が増加している。



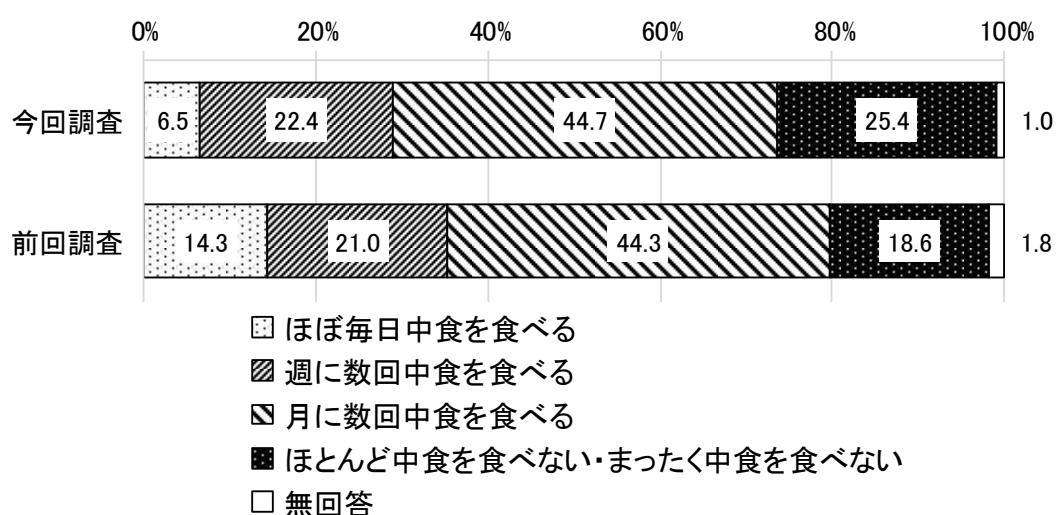
【性別にみる外食の割合】

男性は女性に比べ「週に数回外食をする」が高くなっている一方で、「ほとんど外食をしない・まったく外食をしない」が低くなっており、男性の方が外食の機会がある人の割合が高くなっている。



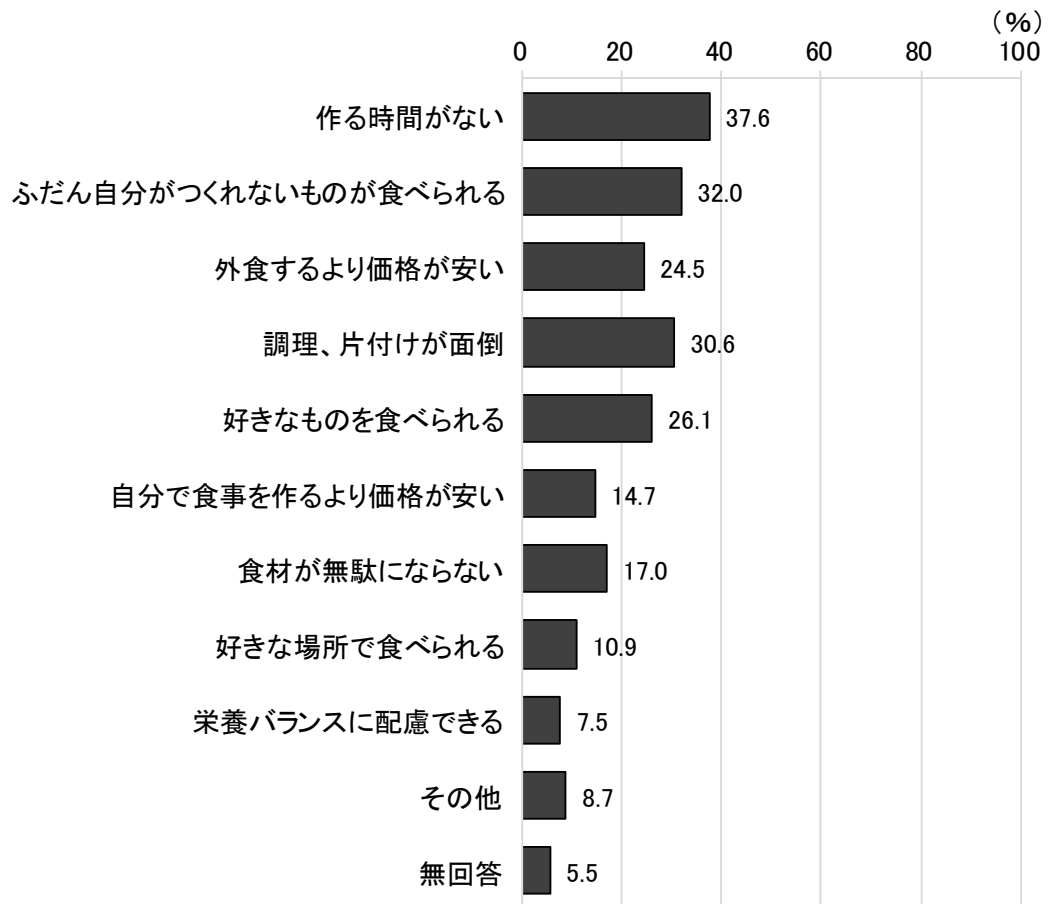
問 18 どのくらいの割合で中食(調理済みの弁当、宅配弁当、惣菜など)を食べますか。

中食を食べる頻度は「月に数回中食を食べる」が44.7%で最も高くなっている。前回調査と比較すると、「ほぼ毎日中食を食べる」が減少している一方で、「ほとんど中食を食べない・まったく中食を食べない」が増加している。外食や中食の機会が増加することで、自身で調理する力を身に付けることや調理することの大変さを感じることで、さらには家庭の味などの継承が困難になる。そうした認識の下、第2次計画では調理機会の充実に向けた施策を展開してきたが、未だ外食の機会が多い状況であるため、引き続き施策の展開や充実が求められる。ただし、中食については改善の傾向がみられる。



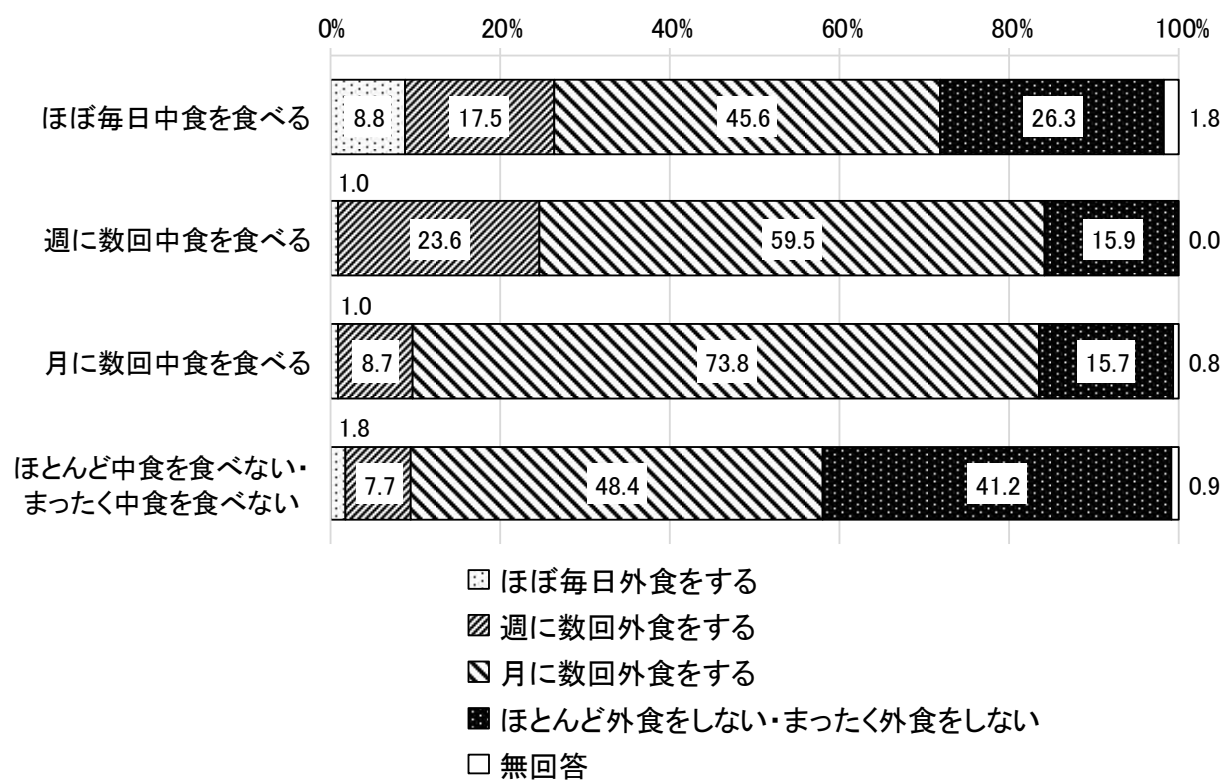
問 19 問 18 で「1. ほぼ毎日中食を食べる」「2. 週に数回中食を食べる」「3. 月に数回中食を食べる」と回答した人におたずねします。中食を食べる理由はどのようなものですか。

中食を食べる理由として、「作る時間がない」が 37.6%で最も高く、ついで「ふだん自分がつくれないものが食べられる」が 32.0%、「調理、片付けが面倒」が 30.6%となっている。



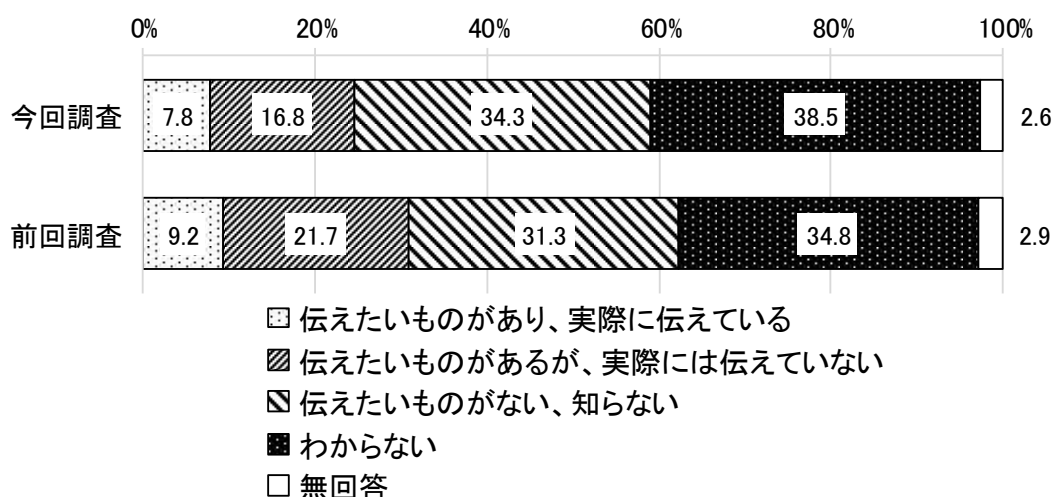
【中食及び外食の摂取状況】

中食を食べない人のうち、外食も食べない割合は41.2%となっている。一方で、中食を食べる頻度がほぼ毎日や週に数回である場合、ほぼ毎日、または週に数回外食をとる割合も高くなっている。



問 29 郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味で、次世代に伝えたいものがありますか。また、実際に伝えていますか。

郷土料理や伝統料理など伝えたいものがある人の割合（「伝えたいものがあり、実際に伝えている」「伝えたいものがあるが、実際には伝えていない」）は24.6%となっており、前回調査の30.9%から減少している。一方で、「伝えたいものがない、知らない」が増加している。郷土料理や伝統料理を知っている人の割合は、数値目標として設定されており、目標値は40.0%となっている。郷土料理や伝統料理は長い歴史の中で育まれた大切な地域の食文化であるため、次の世代に着実に伝承されることが求められる。



問 30 問 29 で伝えたいものがある方におたずねします。伝えたい地域の伝統食や郷土料理は何ですか。

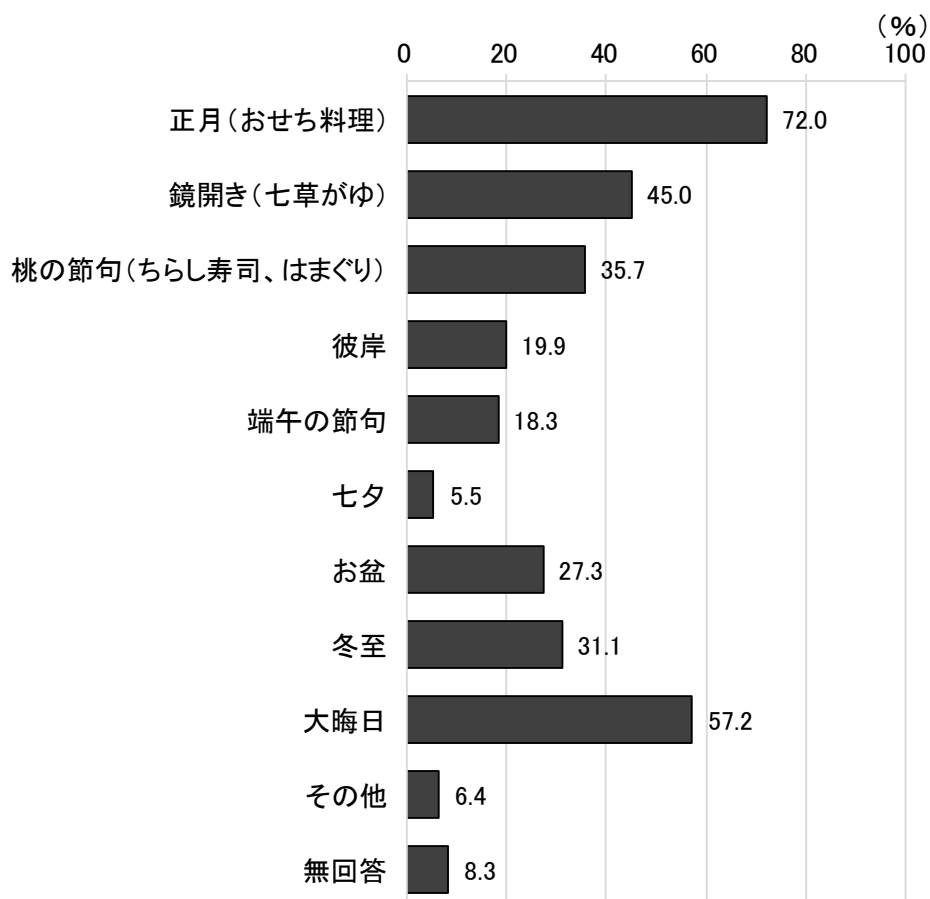
郷土料理や伝統料理で次世代に伝えたいものをみると、いなり寿司が最も多くなっている。ついで五平餅、おせち料理が多くなっている。また、味噌汁や味噌煮、味噌おでんのほか、上位10品目に入らなかったものでは、どて煮や味噌煮込みうどんなど味噌を使った料理が多く挙げられていた。さらに具体的な品目ではないものの、家庭の味を引き継ぎたいとする意見も比較的多くみられた。

順位	品目	件数
1	いなり寿司	29
2	五平餅	19
3	おせち料理	10
4	味噌汁	9
4	煮物	9
4	雑煮	9
7	味噌煮	8
7	おはぎ	8
9	味噌おでん	7
10	漬物	6

※上位10品目を掲載

問 31 自宅で行事食を伴う伝統的な行事についてどれを行っていますか。

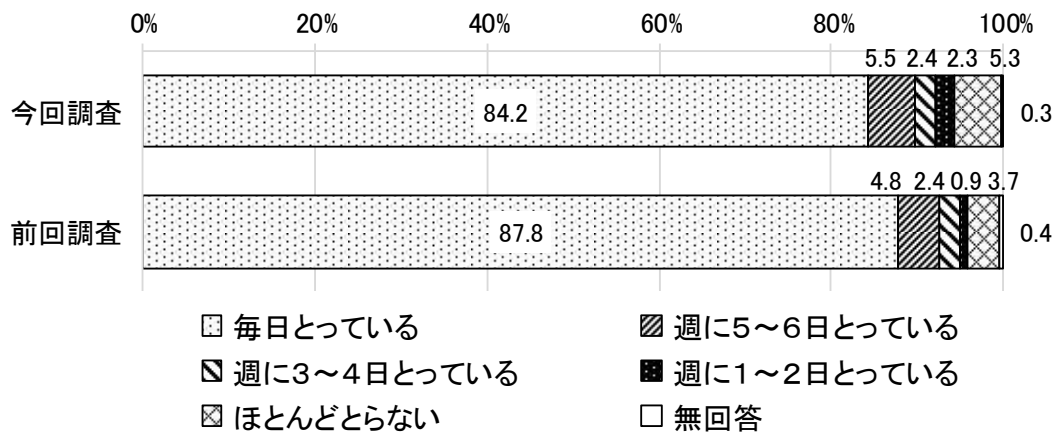
行事食を伴う伝統的な行事をみると、「正月（おせち料理）」が 72.0%で最も高くなっており、ついで「大晦日」が 57.2%、「鏡開き（七草がゆ）」が 45.0%となっている。



基本目標2 健康につながる食育の推進

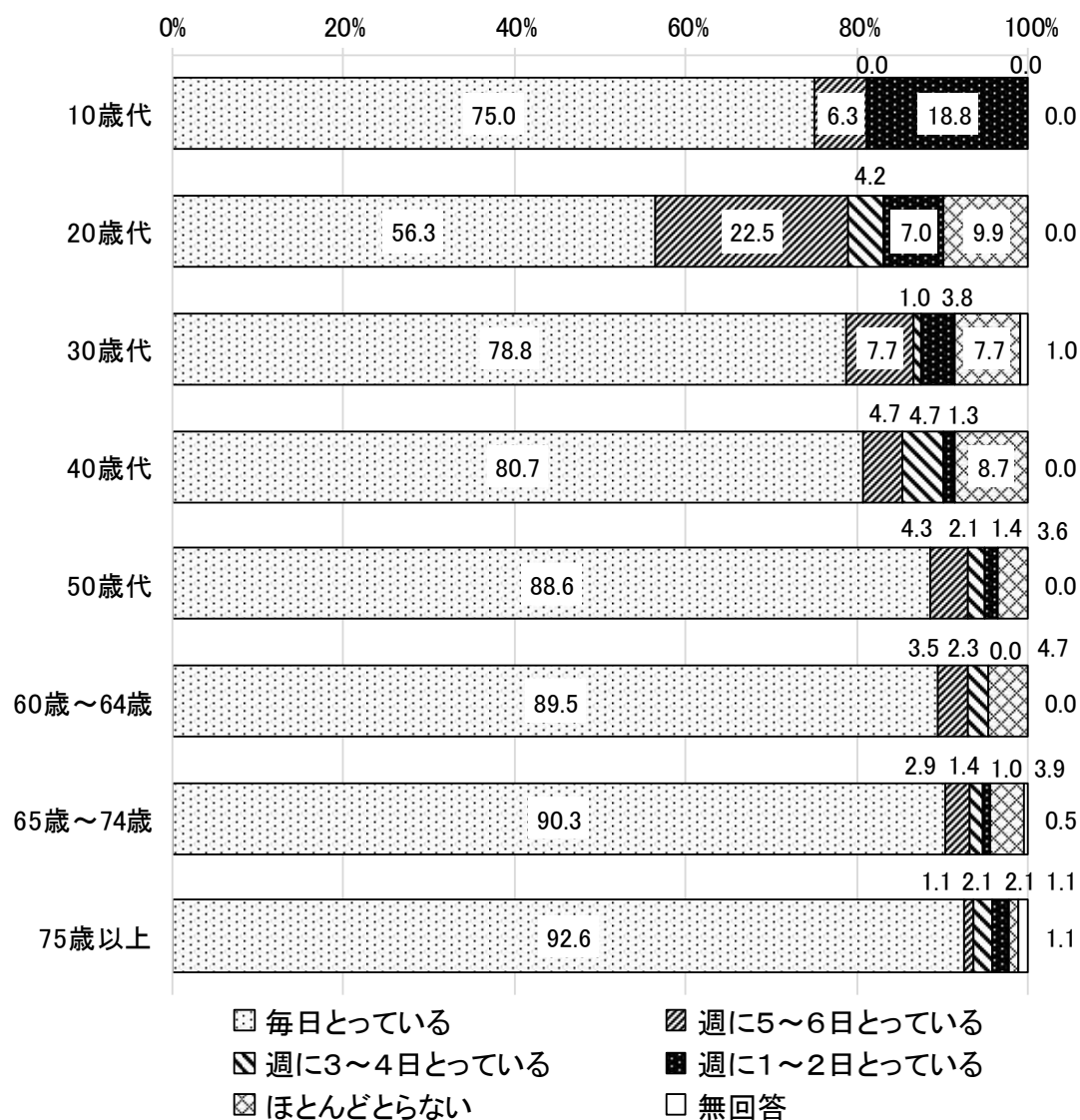
問8 ふだん朝食をとっていますか。

毎日朝食をとっている人の割合は 84.2% となっており、前回調査の 87.8% から減少している。朝食を毎日食べている人の割合は数値目標として設定されており、目標値は 95.0% となっている。今回の調査でその値が減少に転じたため、朝食の摂取状況の改善に資する施策の展開・強化の検討が必要である。



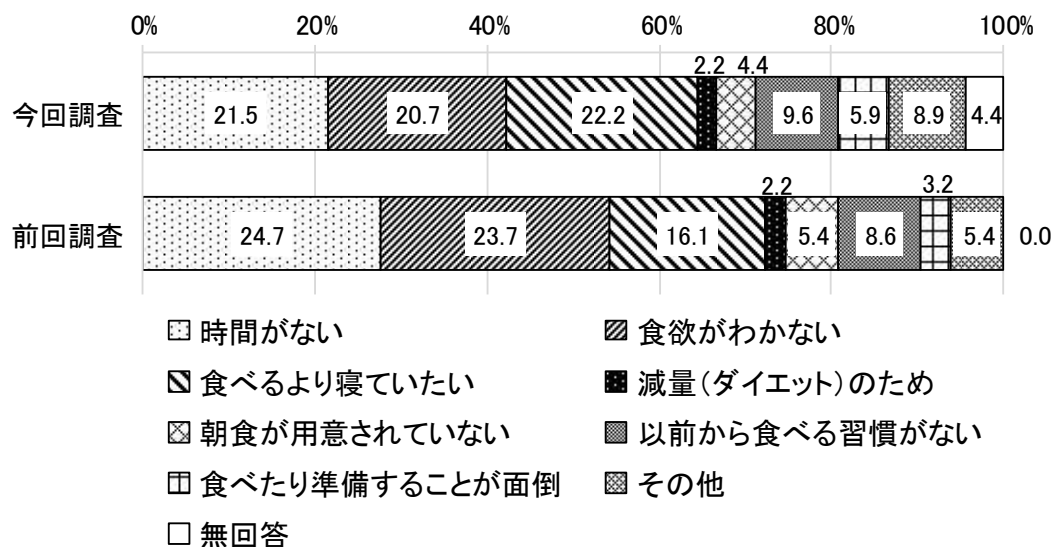
【年代別にみる朝食の摂取状況】

毎日朝食をとってる人は75歳以上で最も高く、92.6%となっている。一方で、20歳代では56.3%となっており、年代別でみたときに最も低くなっている。



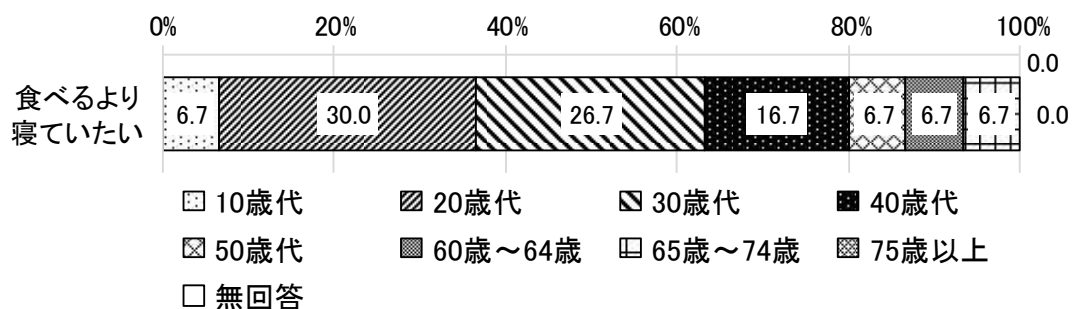
問9 問8で「2. 週に5～6日とっている」「3. 週に3～4日とっている」「4. 週に1～2日とっている」「5. ほとんどとらない」と回答した人におたずねします。朝食をとらない日があるのはどのような理由ですか。

朝食をとらない日がある理由として、「食べるより寝ていたい」が22.2%で最も高くなっている。前回調査では「時間がない」が24.7%で最も高くなっており、「食べるより寝ていたい」は16.1%となっていた。生活習慣の乱れによる食生活の乱れが生活習慣病等の一因となることがあるため、規則正しい生活習慣を定着させることは重要である。そのため、規則正しい生活習慣及び食習慣を習得できるように施策の充実が求められる。



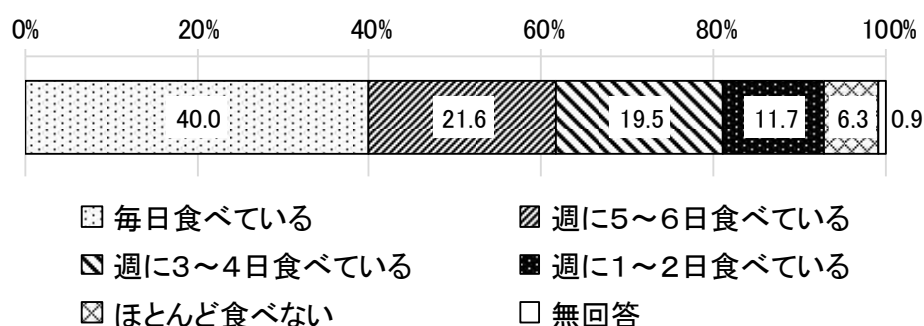
【食べるより寝ていたいと回答した人の年代】

朝食をとらない理由について、「食べるより寝ていたい」と回答した人の年代をみると、20 歳代で30.0%、30 歳代で26.7%と高くなっている。



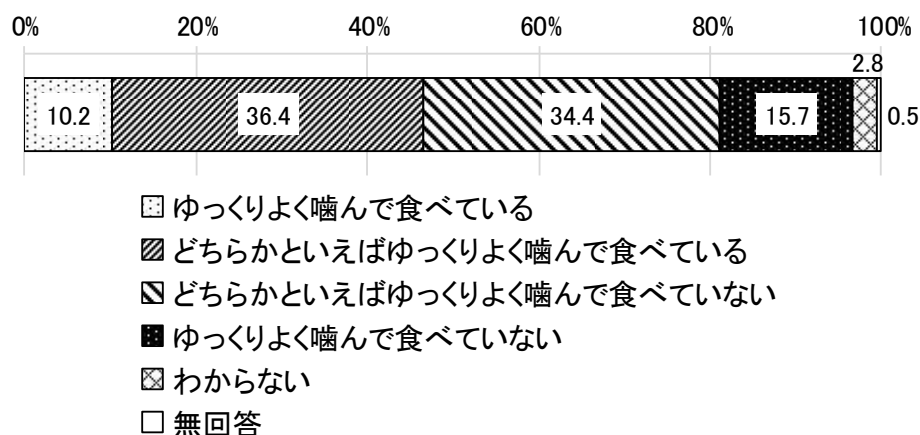
問 10 主食(ごはん、パン、麺など)・主菜(肉・魚・卵・大豆製品などを使ったメインの料理)・副菜(野菜・きのこ・いも・海草などを使った小鉢・小皿料理)を3つそろえて食べることが1日に2回以上ある日は週に何日ありますか。

主食・主菜・副菜の3つをそろえて食べることが1日に2回以上ある人の割合は、「毎日食べている」が40.0%となっている。第2次計画では、栄養バランスのとれた食生活の実践のため、各種施策を展開してきた。バランスの取れた食事をとることは、肥満や生活習慣病の予防など健康に資するものであるため、引き続き主食・主菜・副菜をそろえたバランスのとれた食事の啓発などの施策を展開することが必要である。



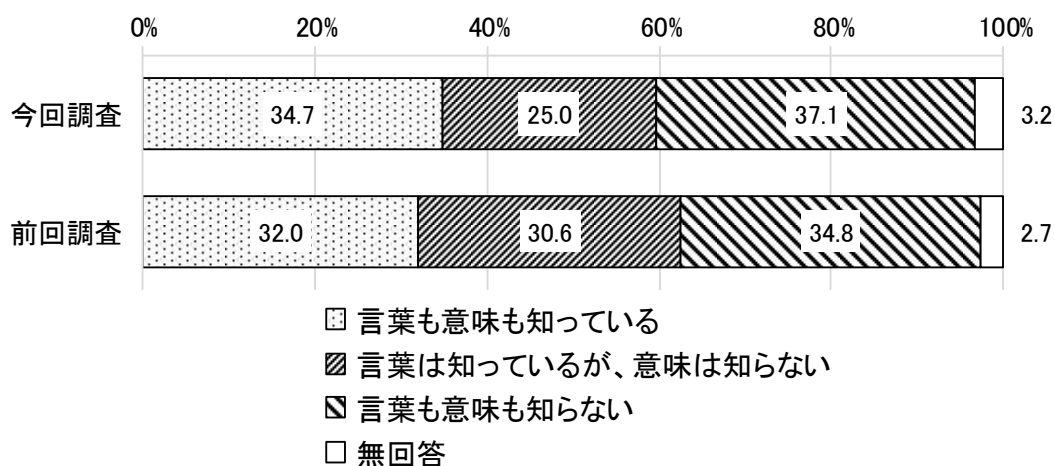
問 11 ふだん、ゆっくりよく噛んで食べていますか。

ふだん、ゆっくりよく噛んで食べている人の割合（「ゆっくりよく噛んで食べている」「どちらかといえばゆっくりよく噛んで食べている」の合計）は46.6%となっている。よく噛むことは虫歯や歯周病予防にもつながることから、ゆっくりよく噛んで食べることの意義を啓発する施策の検討が重要である。



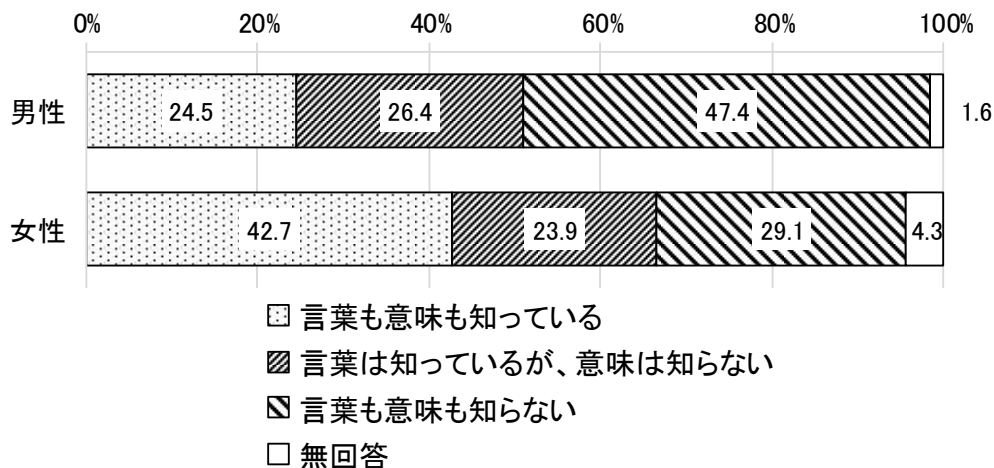
問 33 「食事バランスガイド」を知っていますか。

「食事バランスガイド」という言葉を知っている人は、59.7%となっている。また、意味まで知っている人は 34.7%となっている。前回調査では、言葉を知っている人が 62.6%、意味まで知っている人が 32.0%であり、おおむね横ばいで推移している。「食事バランスガイド」は1日に何をどれだけ食べるとよいかが一目でわかる食事の目安である。バランスのよい食生活の実践のために、「食事バランスガイド」の周知が求められる。



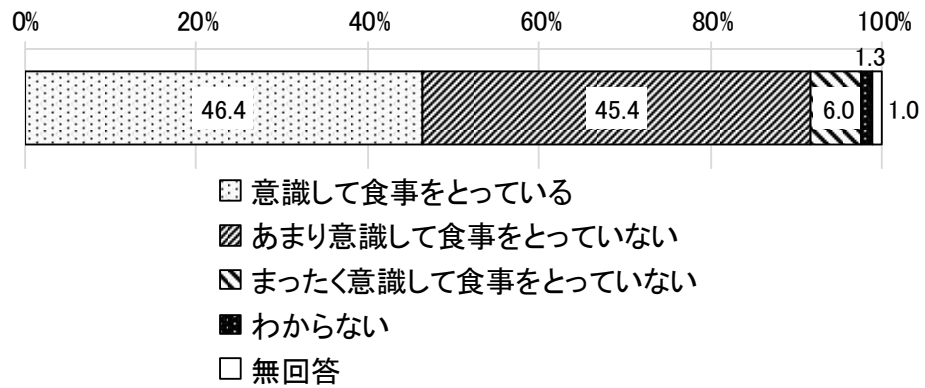
【性別にみる「食事バランスガイド」の認知度】

「食事バランスガイド」という言葉を知っている人は、女性では 66.6%となっているのに対して、男性では 50.9%となっている。また、男性では言葉も意味も知らない人が 47.4%と半数近くに上ることから、特に男性に対する周知を徹底することが重要である。



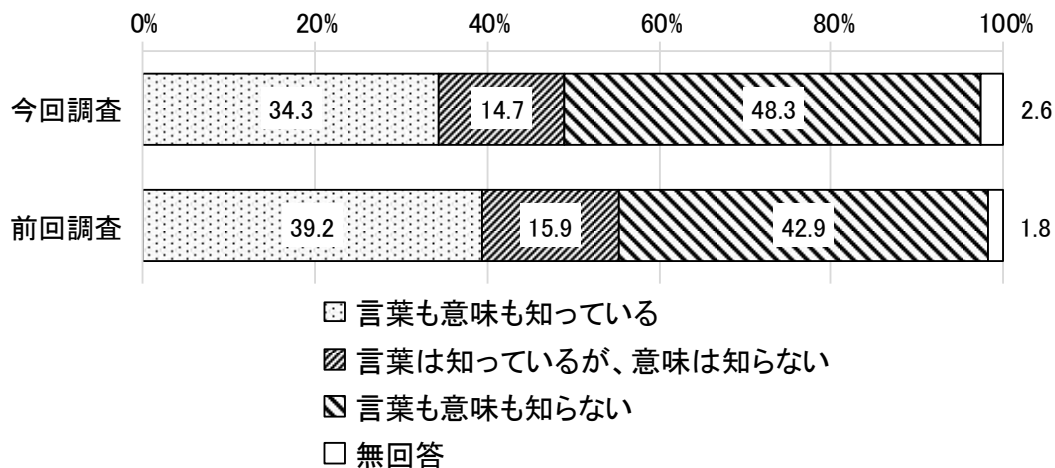
問 34 問 33 で「1. 言葉も意味も知っている」と回答した人におたずねします。「食事バランスガイド」を意識して食事をとっていますか。

食事バランスガイドを意識して食事をとっている人の割合は 46.4%となっている。意味まで知っている人では半数近くが実践していることになるが、認知度の向上とともに「食事バランスガイド」を実践へと移すための施策の一層の強化を検討する必要がある。



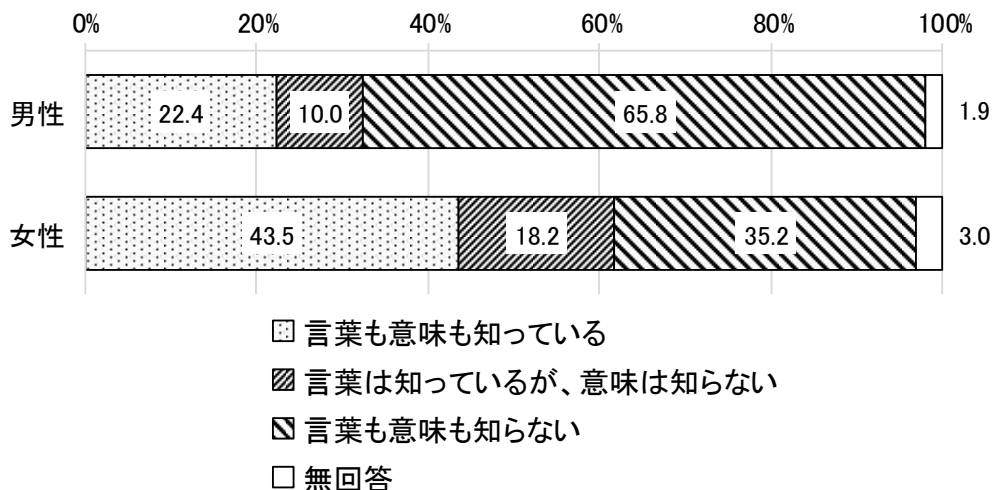
問 35 「手ばかり」を知っていますか。

「手ばかり」という言葉を知っている人は、49.0%となっている。また、意味まで知っている人は 34.3%となっている。前回調査では、言葉を知っている人が 55.1%、意味まで知っている人が 39.2%であり、いずれも減少している。「手ばかり」は自分に適した1日の食事量を自分の手をもものさしとして計る方法であり、バランスのよい食生活を理解するために重要であることから認知度の向上が必要である。



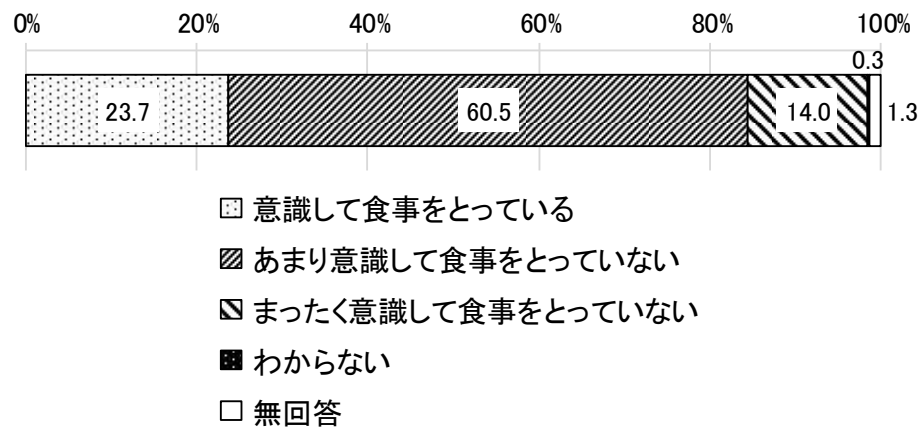
【性別にみる「手ばかり」の認知度】

「手ばかり」という言葉を知っている人は、女性では61.7%となっているのに対して、男性では 32.4%となっている。また、男性では言葉も意味も知らない人が 65.8%と半数以上となっていることから、「食事バランスガイド」と同様に、特に男性に対する周知を徹底することが求められる。



問 36 問 35 で「1. 言葉も意味も知っている」と回答した人におたずねします。「手ばかり」を意識して食事をとっていますか。

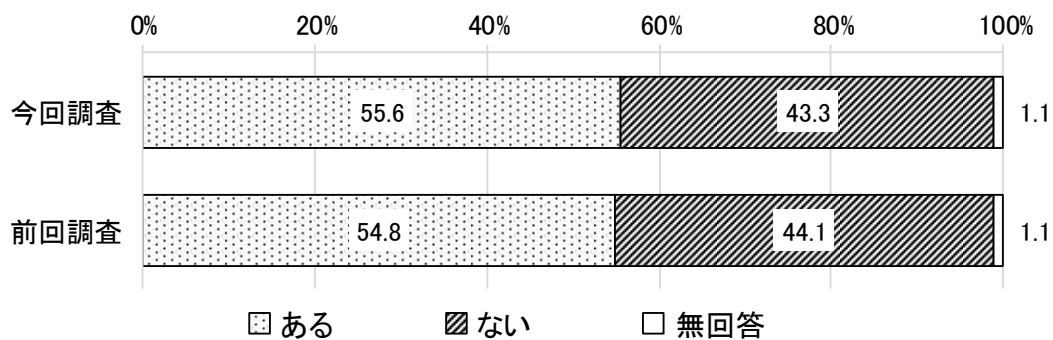
手ばかりを意識して食事をとっている人の割合は 23.7%となっており、意味まで知っている人でも実践している人は少ない状況である。認知度の向上とともに「手ばかり」を実践へと移すための施策の強化の検討が必要である。



基本目標3 地域につながる食育の推進

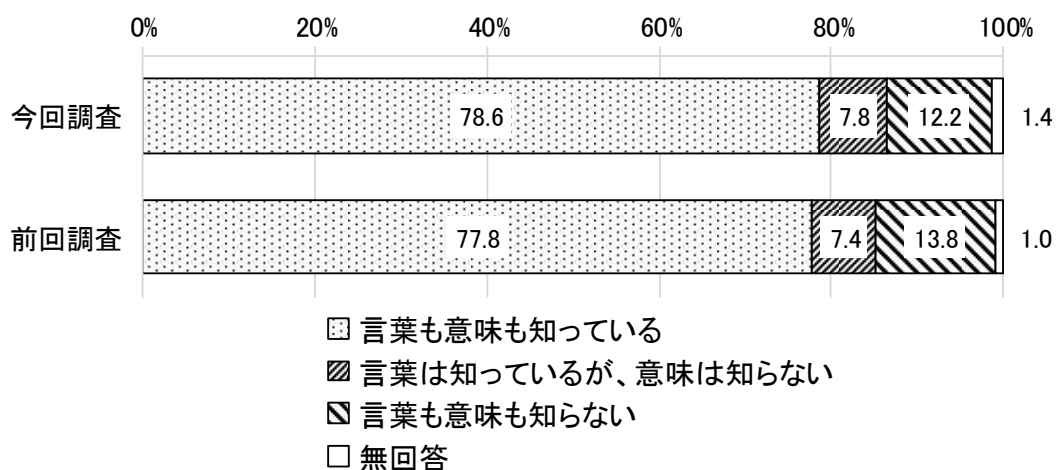
問 21 農林漁業の体験(栽培、収穫体験や家庭菜園など)をしたことはありますか。

農林漁業の体験をしたことがある人の割合は 55.6%となっており、前回調査の 54.8%からおおむね横ばいで推移している。農林漁業の体験活動をしたことのある人の割合は、数値目標として設定されており、目標値は 70.0%となっている。目標値には達しておらず、第 1 次計画策定時から大きな変化はみられないものの、一貫して増加傾向を示しているため、引き続き施策を展開していくことが求められる。



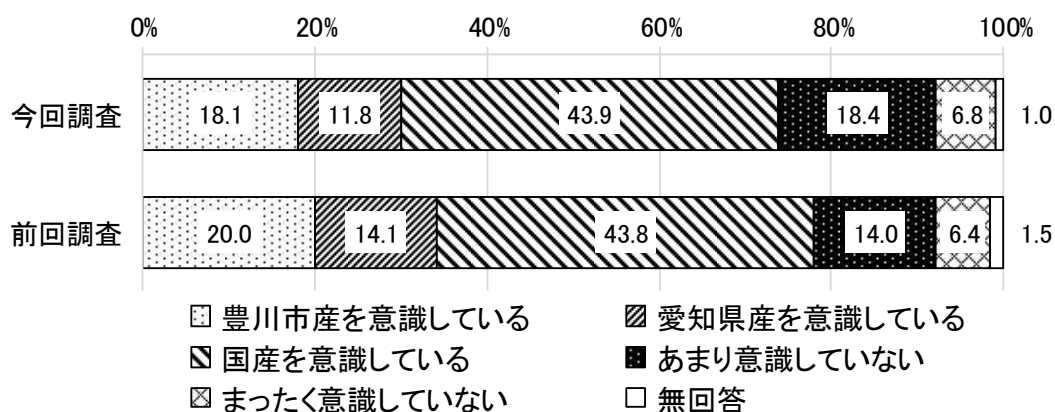
問 22 「地産地消」という言葉を知っていますか。

「地産地消」という言葉を知っている人は、86.4%となっている。また、意味まで知っている人は 78.6%となっている。前回調査では、言葉を知っている人が 85.2%、意味まで知っている人が 77.8%であり、おおむね横ばいで推移している。しかし、第 1 次計画策定時から一貫して増加しているため、引き続き施策の展開が求められる。



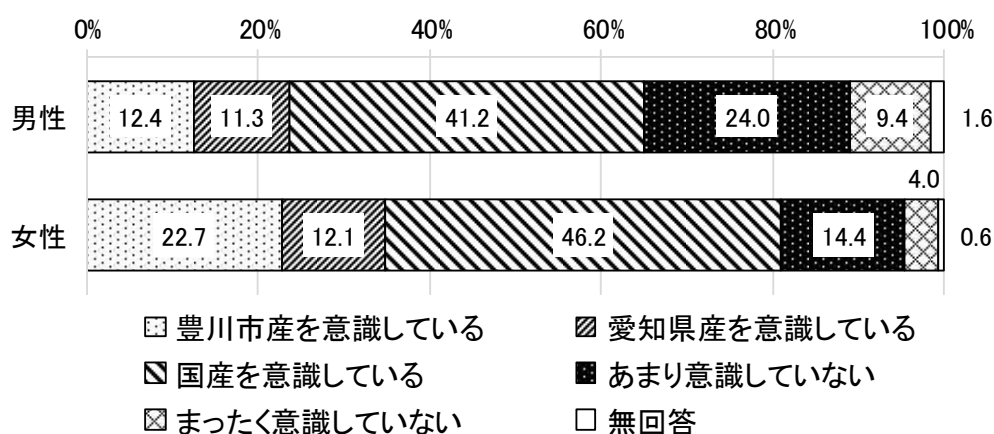
問 23 地元の農産物を意識して購入しますか。

豊川市産・県内産を意識して農産物を購入している人の割合は 29.9%となっており、前回調査の 34.1%から減少している。一方で意識していない人の割合（「あまり意識していない」「まったく意識していない」の合計）は 25.2%となっており、前回調査の 20.4%から増加している。豊川市産・県内産を意識して農産物を購入している人の割合は、数値目標として設定されており、目標値は 50.0%となっている。第2次計画では、様々な施策を通じて地産地消の推進を図ってきたが、今後一層の施策の充実が求められる。



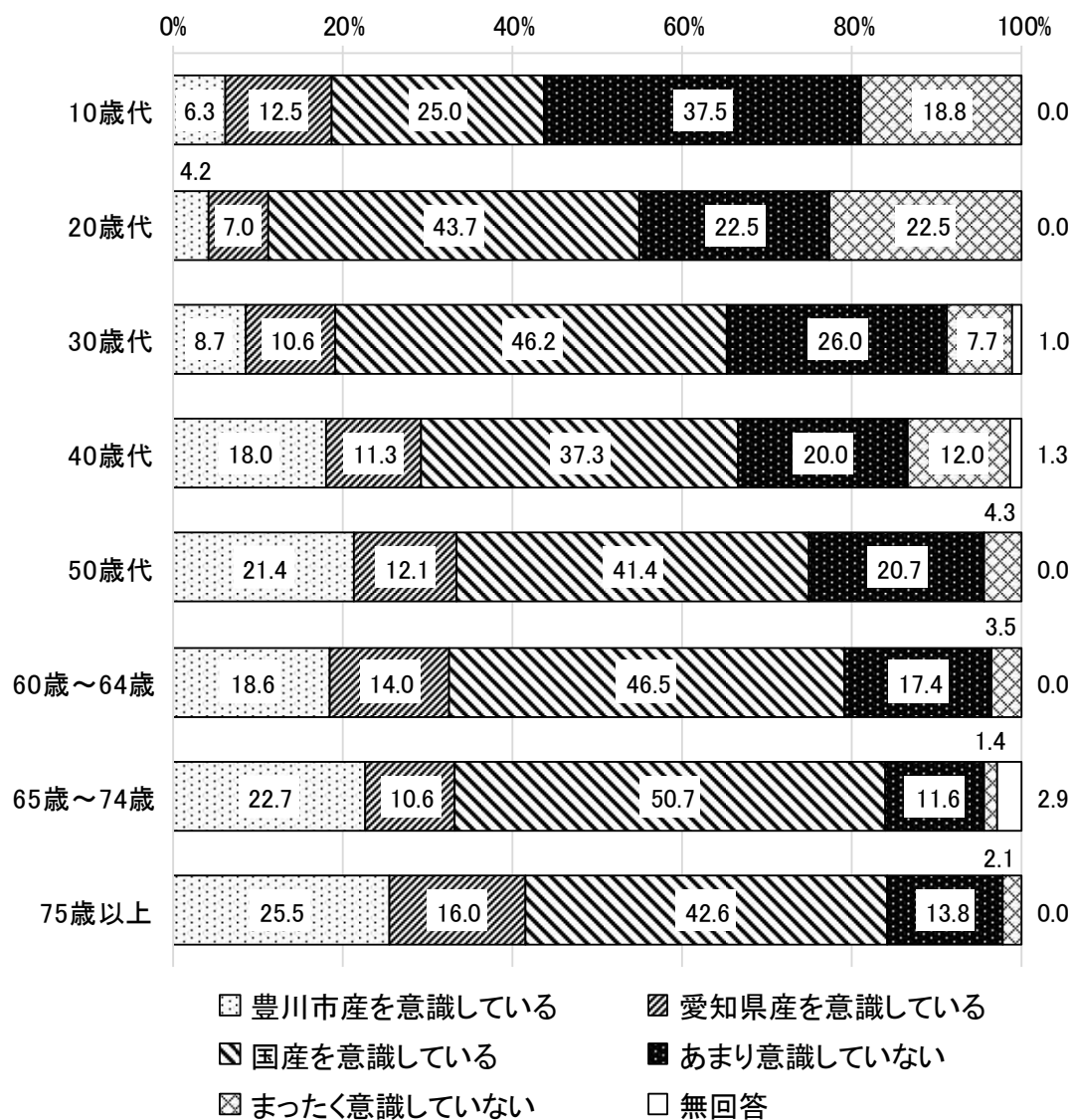
【性別にみる地元の農産物の意識的な購入の状況】

豊川市産・県内産を意識して農産物を購入している人の割合は女性が 34.8%、男性が 23.7%となっており、女性の方が男性よりも 10 ポイント以上高くなっている。また、意識していない人の割合は男性が 33.4%、女性が 18.4%となっており、男性と女性では意識に違いがみられる。そのため、特に男性に対する施策の充実が重要である。



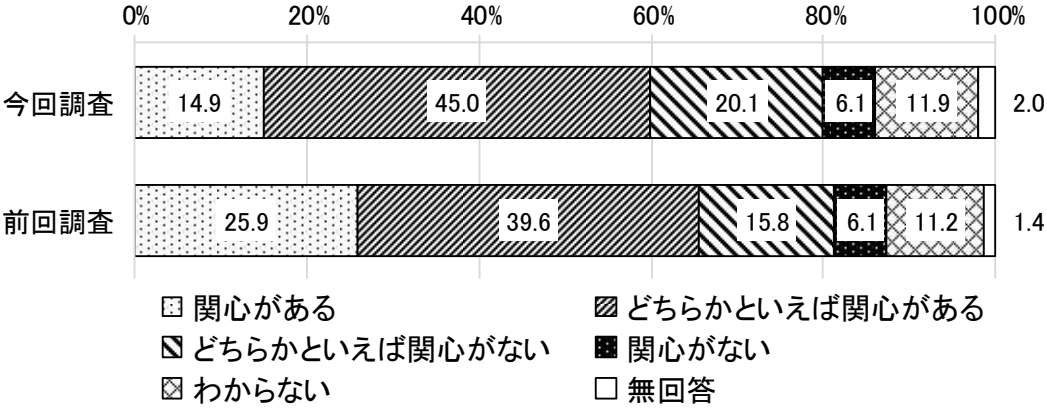
【年代別にみる地元の農産物の意識的な購入の状況】

豊川市産・県内産を意識して農産物を購入している人の割合は、75歳以上で最も高く41.5%となっている。一方で、20歳代で最も低く11.2%となっており、年代が若いほど意識していない人の割合も高くなる傾向がみられる。そのため、若い世代に対する施策の充実が求められる。



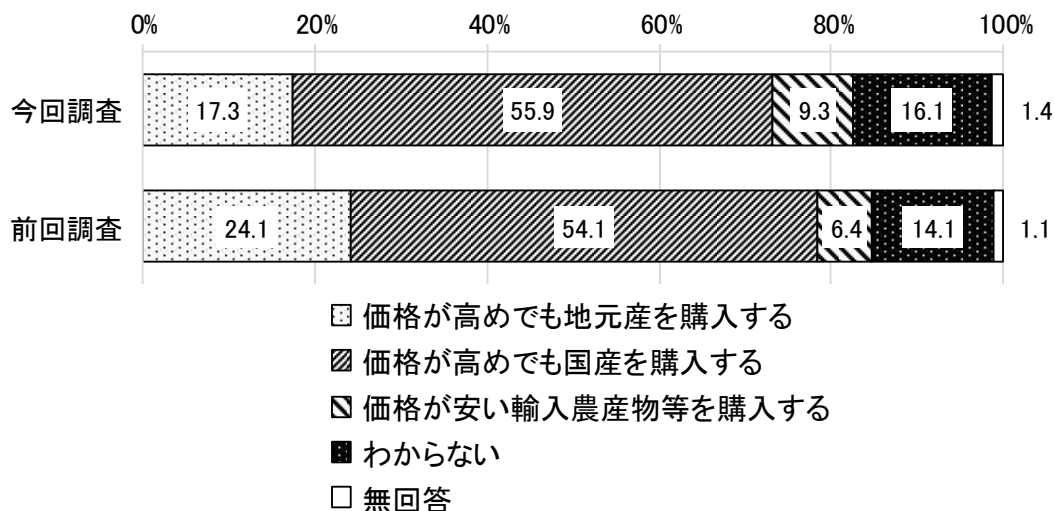
問 24 TPP への参加に伴い、安い農産物が購入しやすくなる反面、地産地消の停滞が懸念されています。その影響について関心はありますか。

TPP による地産地消の停滞に対して関心のある人の割合（「関心がある」「どちらかといえば関心がある」の合計）は 59.9%となっており、前回調査の 65.5%から減少している。



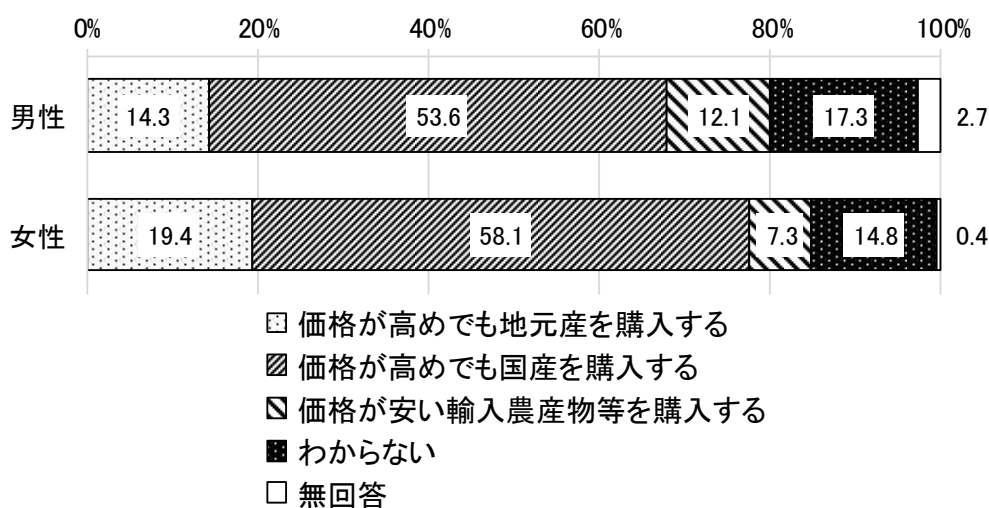
問 25 地元農産物で安全・安心なものであれば、少し価格が高めでも購入しますか。

農産物の購入について、価格が高めでも地元産を購入する人の割合は 17.3%となっており、前回調査の 24.1%から減少している。第 2 次計画では地場産物・旬産品の販売やこだわり農産物認証事業を実施してきたが、引き続きそうした施策を展開し、地産地消へと結び付けることが重要である。



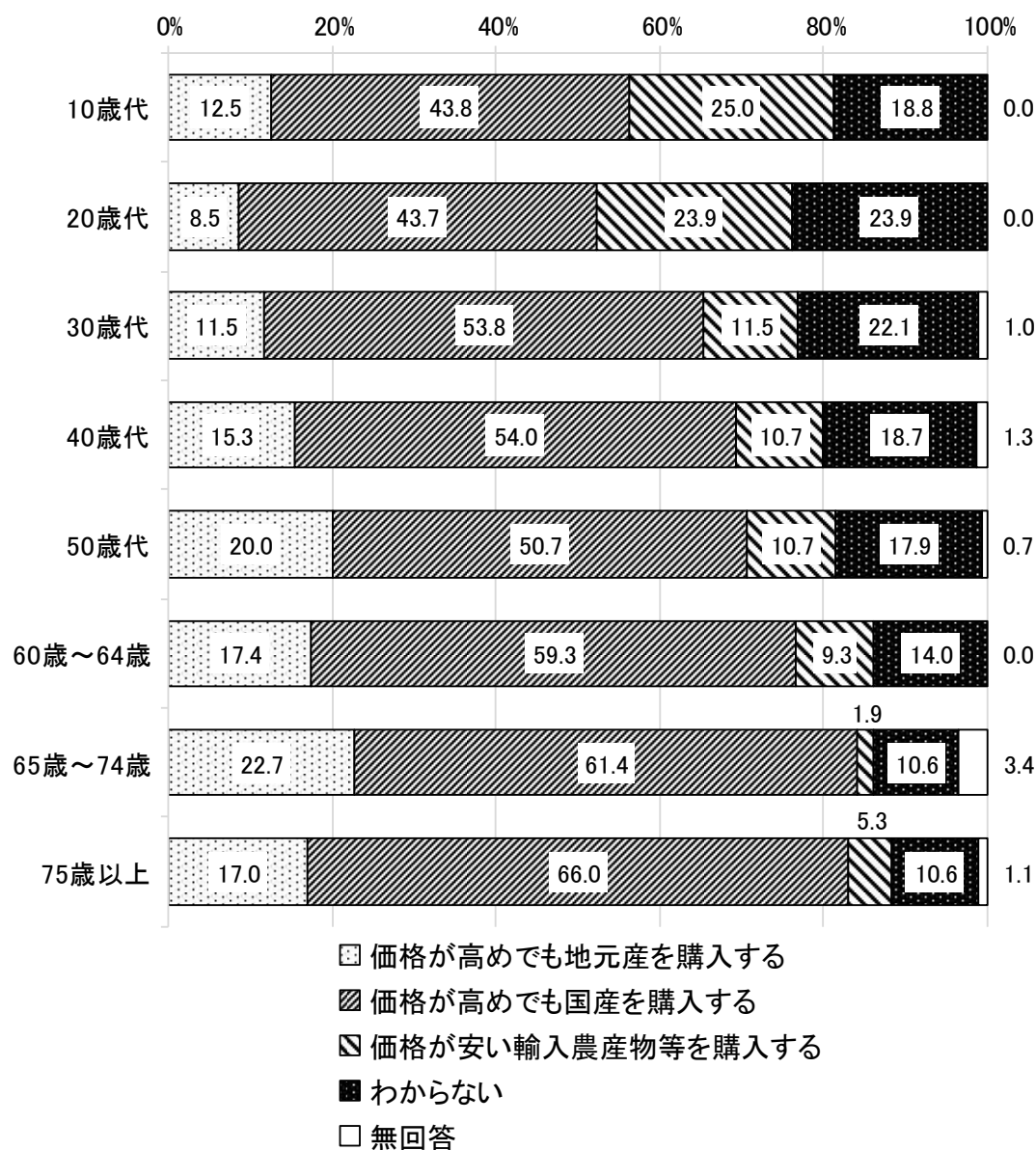
【性別にみる価格が高い場合の地元農産物の購入意向】

農産物の購入について、価格が高めでも地元産を購入する人の割合は、女性が 19.4%であるのに対して、男性では 14.3%となっている。国産の農産物についても同様に、女性が 58.1%であるのに対して、男性は 53.6%と低い状況であり、男性に対する施策の充実が求められる。



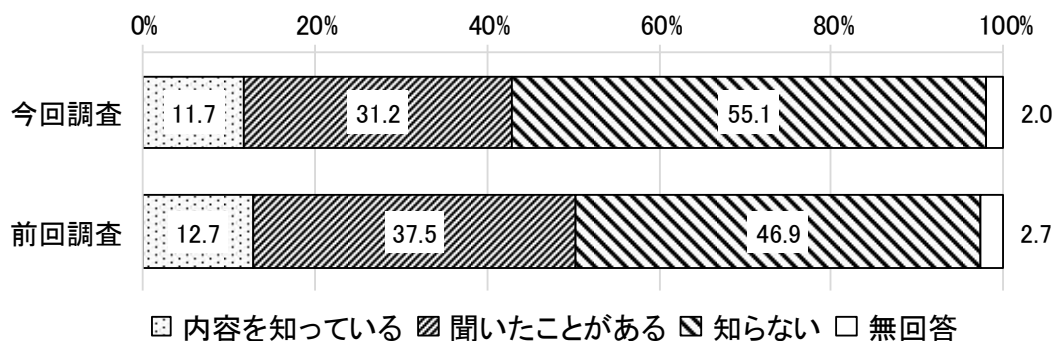
【年代別にみる価格が高い場合の地元農産物の購入意向】

農産物の購入について、価格が高めでも地元産を購入する人の割合が最も高いのが 65 歳～74 歳で 22.7%となっている。一方で、最も低いのが 20 歳代で 8.5%となっている。10 歳代や 20 歳代では価格が安い輸入農産物等の購入意向が、他の年代よりも強くなっており、地産地消について若い世代への施策の充実が必要である。



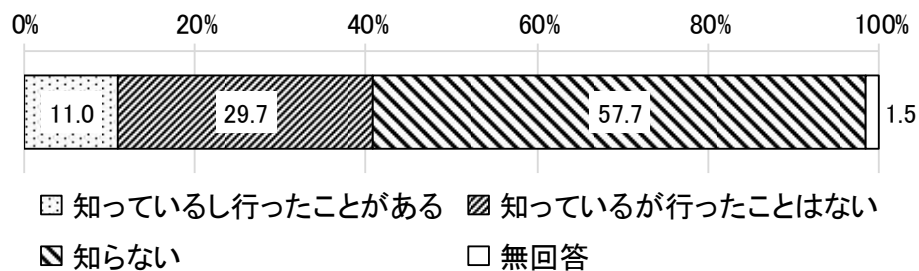
問 26 「こだわり農産物」を知っていますか。

「こだわり農産物」について内容を知っている人の割合は 11.7%となっており、前回調査の 12.7%からおおむね横ばいで推移している。ただし、聞いたことがある人の割合は 37.5%から 31.2%へ減少している一方で、知らない人の割合が 46.9%から 55.1%へと増加している。「こだわり農産物」は地産地消や食の安全にも関わるため、認知度の向上が求められる。



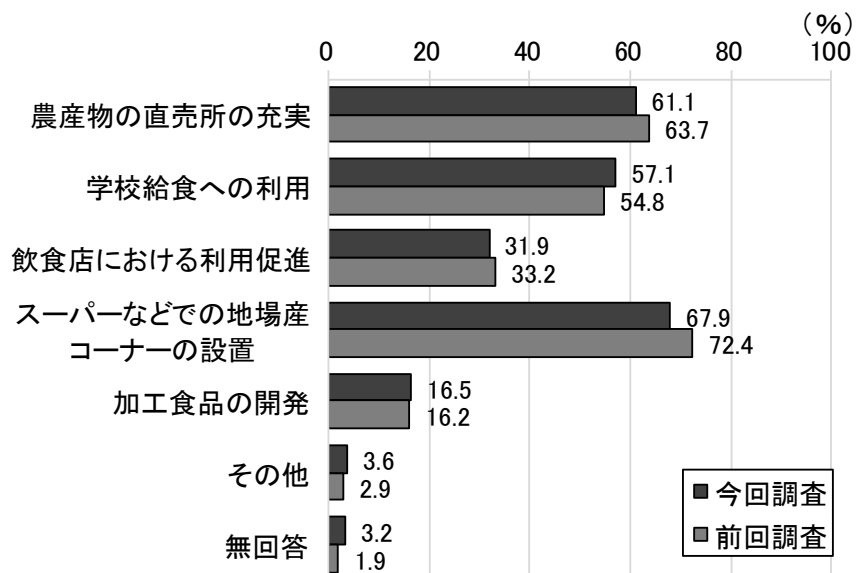
問 27 とよかわ農業市を知っていますか。

とよかわ農業市を知っている人は 40.7%となっており、実際に行ったことがある人は 11.0%にとどまっている。認知度がおよそ 4 割と低いため、広く市民に周知する取組が重要である。



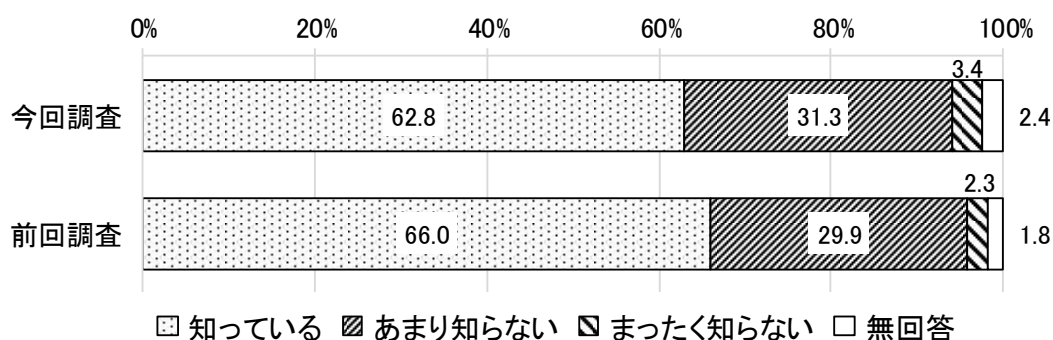
問 28 「地産地消」のために必要なことは何だと思いますか。

地産地消のために必要なこととして「スーパーなどでの地場産コーナーの設置」が 67.9 で最も高く、ついで「農産物の直売所の充実」が 61.1%、「学校給食への利用」が 57.1%となっており、前回調査とおおむね同様の傾向を示している。ただし、「スーパーなどでの地場産コーナーの設置」は前回調査の 72.4%から減少している。



問 32 旬の味覚(他の時期よりも新鮮でおいしく食べられる時期の食べ物)を知っていますか。

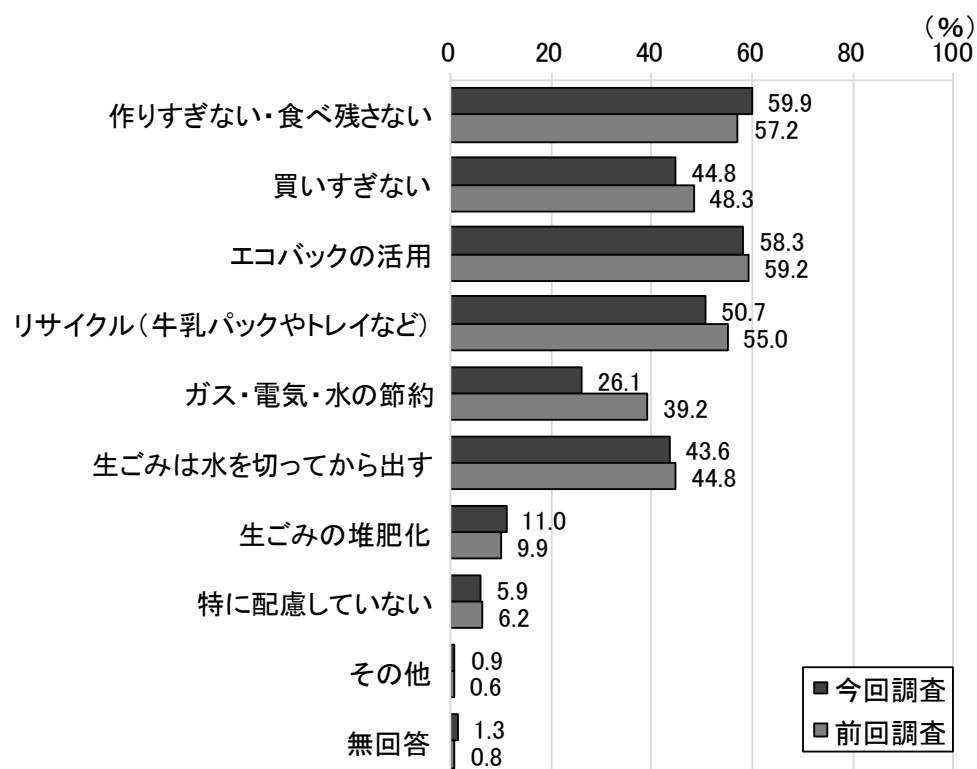
旬の味覚を知っている人の割合は 62.8%となっており、前回調査の 66.0%から減少している。旬の味覚を理解し、家庭で実践することで地産地消にもつながることから、引き続き、旬の食材の紹介などの施策の展開が重要である。



基本目標4 エコライフにつながる食育の推進

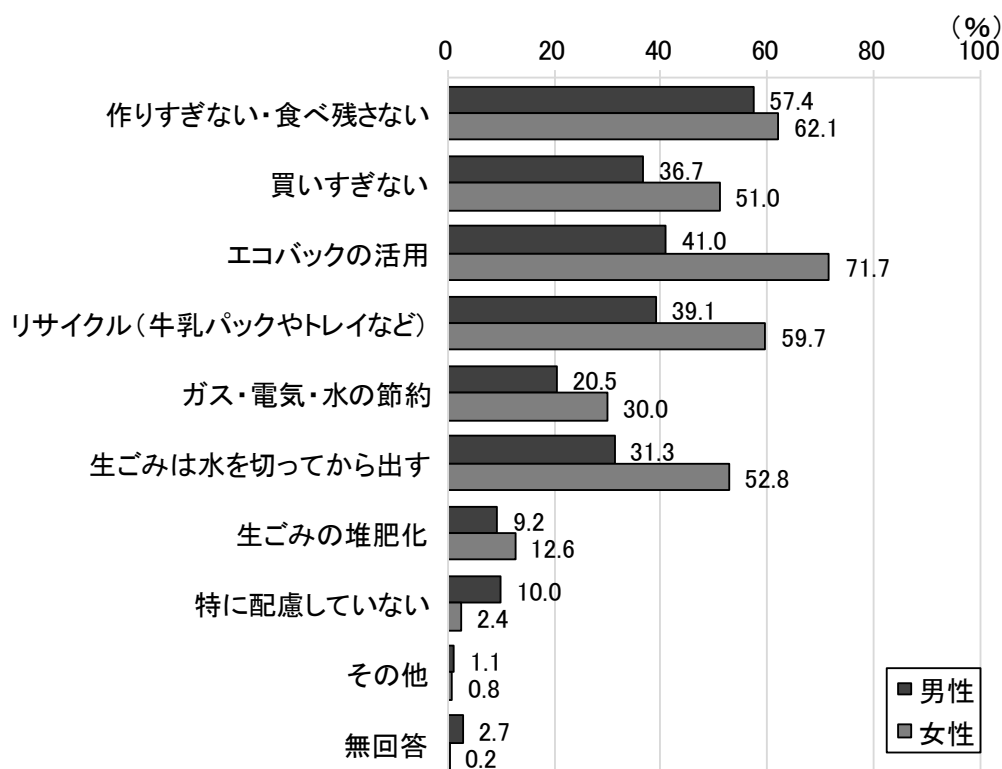
問 20 食生活に関わることで、どのような環境への配慮をしていますか。

食生活に関する環境への配慮として「作りすぎない・食べ残さない」が59.9%で最も高く、ついで「エコバッグの活用」が58.3%、「リサイクル（牛乳パックやトレイなど）」が50.7%となっている。前回調査と比較すると、「ガス・電気・水の節約」が10ポイント以上減少しているほか、「買いすぎない」や「リサイクル（牛乳パックやトレイなど）」が減少しているが、その他は大きな変化はみられない。作りすぎない・食べ残さないように配慮している人の割合は、数値目標として設定されており、目標値は70.0%となっている。目標値には達していないものの、作りすぎない・食べ残さないように配慮している人の割合は、第1次計画策定時から一貫して増加しており、引き続き施策の展開が求められる。



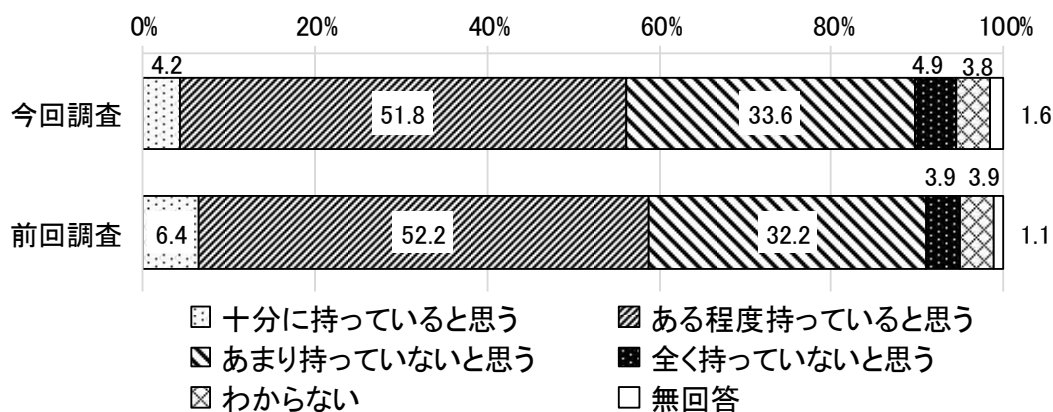
【性別にみる食生活に関する環境への配慮】

食生活に関する環境への配慮として「買いすぎない」「エコバックの活用」「リサイクル（牛乳パックやトレイ）」「ガス・電気・水の節約」「生ごみは水を切ってから出す」では、それぞれ 10 ポイントから 30 ポイント程度の差がみられ、いずれの項目も女性の方が高くなっている。一方で、数値目標として設定されている「作りすぎない・食べ残さない」では性別による大きな差はみられない。数値目標の達成に向けて、作りすぎない・食べ残さないように配慮している人の割合を高めていくとともに、その他の項目についても特に男性に対する意識啓発を積極的に図っていく必要がある。



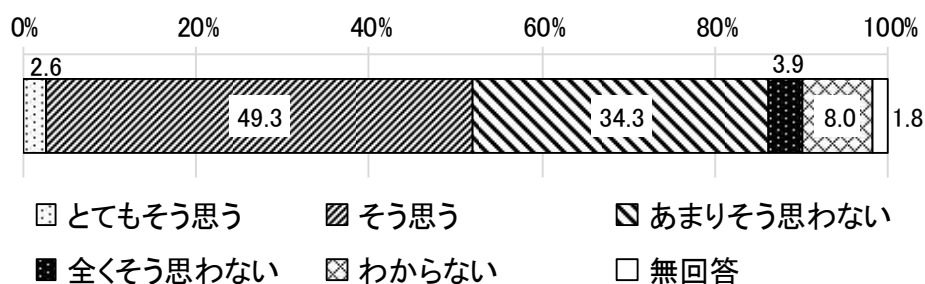
問 39 食品の安全に関する知識を持っていると思いますか。

食品の安全に関する知識を持っていると思う人の割合（「十分に持っていると思う」「ある程度持っていると思う」の合計）は 56.0%となっており、前回調査の 58.6%からおおむね横ばいで推移している。



問 40 食品の安全を意識した食事を摂ることができていると思いますか。

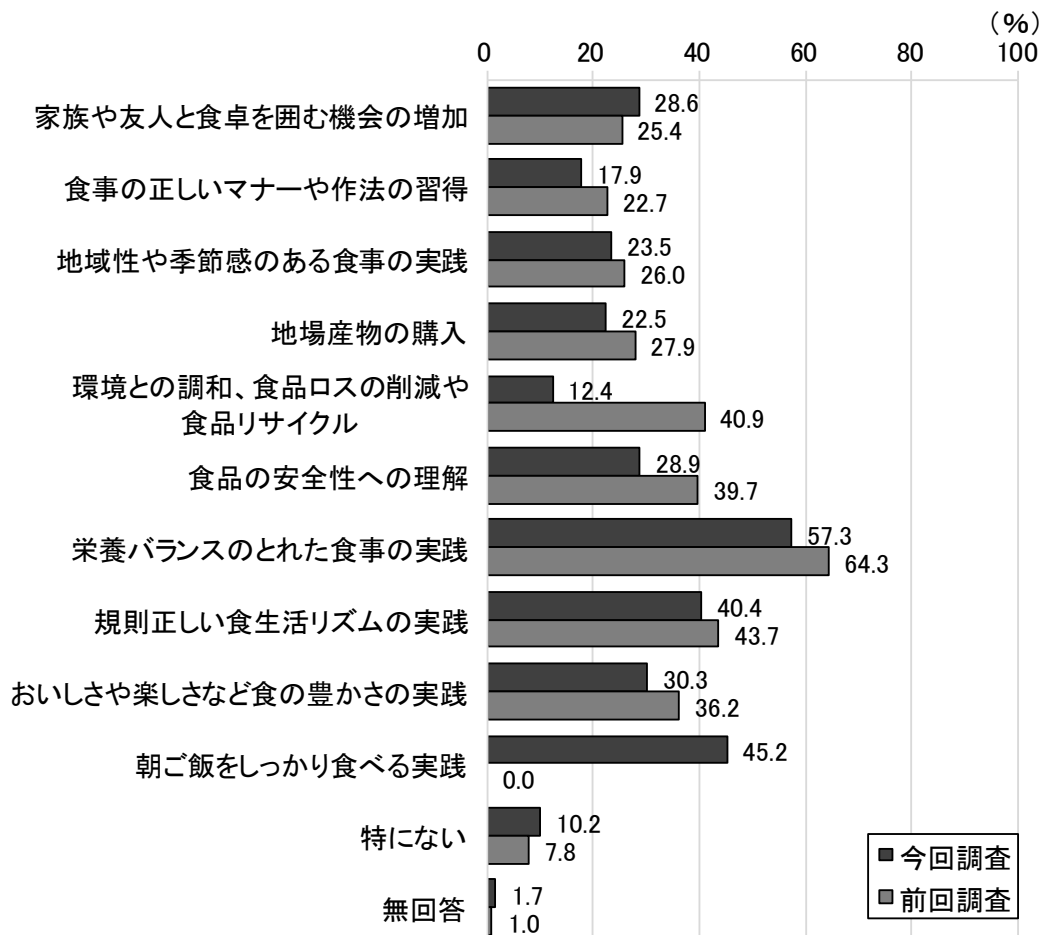
食品の安全を意識した食事をとることができていると思う人の割合（「とてもそう思う」「そう思う」の合計）は 51.9%となっている。第 2 次計画では、食の安全の確保のために消費者の知識を高めることと同様に、生産者や事業者の意識を高めるための施策も必要となるという考え方から、こだわり農産物認証事業などの施策を行ってきた。食の安全を確保するために、引き続き消費者が適切な判断ができるように知識を深めるとともに、生産者や事業者が食の安全に対する意識を高めるための施策を展開することが重要である。



その他

問 37 現在の食生活で、特にどのような面に力を入れていますか。

食生活で特に力を入れていることをみると、「栄養バランスのとれた食事の実践」が 57.3%で最も高く、ついで「朝ご飯をしっかり食べる実践」が 45.2%、「規則正しい食生活リズムの実践」が 40.4%となっている。前回調査と比較すると、「環境との調和、食品ロスの削減や食品リサイクル」がおよそ 30 ポイント減少している。ただし、問 20 では食生活に関わることで環境に配慮していることとして、「作りすぎない・食べ残さない」が 59.9%と最も高くなっている。このことから、食べ物を作りすぎない・食べ残さない意識は依然として高いものの、食品ロスや食品リサイクルという言葉が市民の間に浸透していないため、本設問における「環境との調和、食品ロスの削減や食品リサイクル」の割合が大幅に減少したものと考えられる。また、「食品の安全性への理解」が 10 ポイント以上減少して 28.9%となっている。

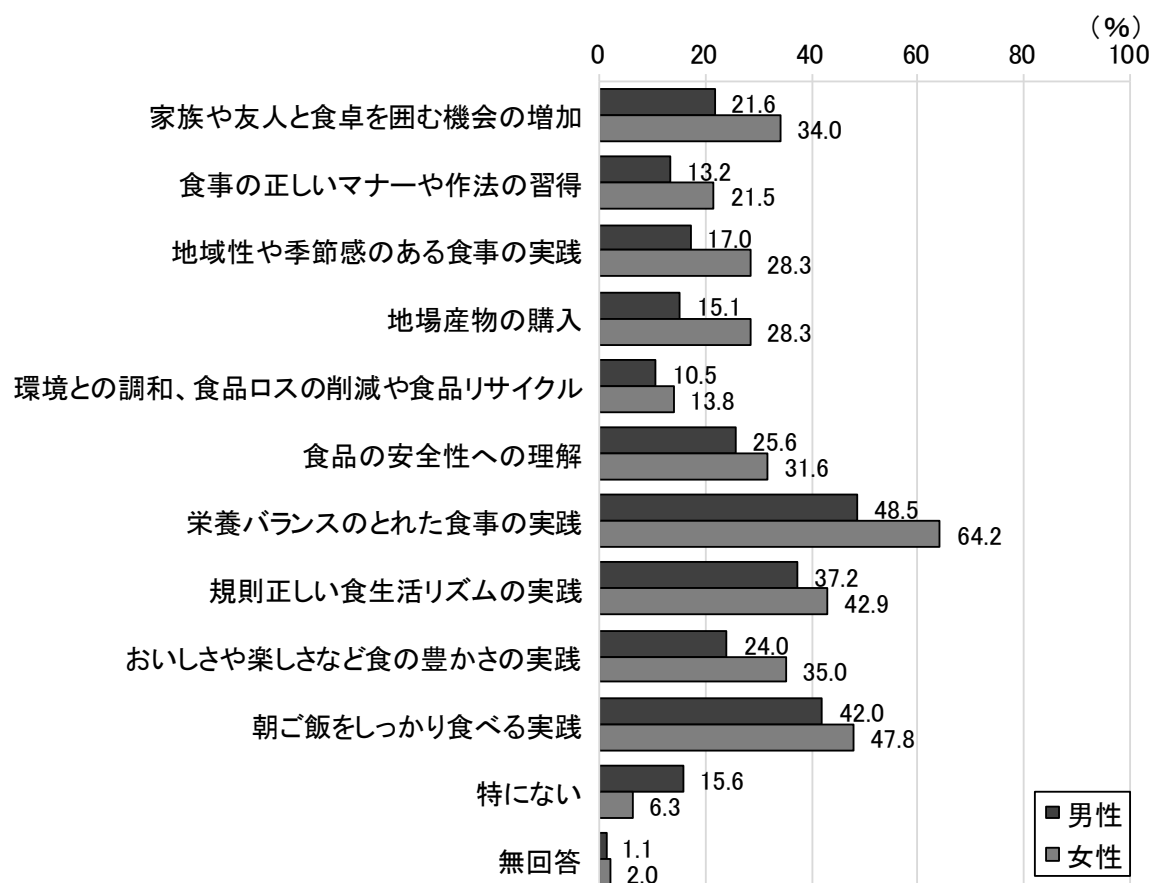


※「環境との調和、食品ロスの削減や食品リサイクル」は、前回調査では「食べ残しや食品の廃棄の削減」となっていた。

※「朝ご飯をしっかり食べる実践」は今回調査から追加された選択肢となっている。

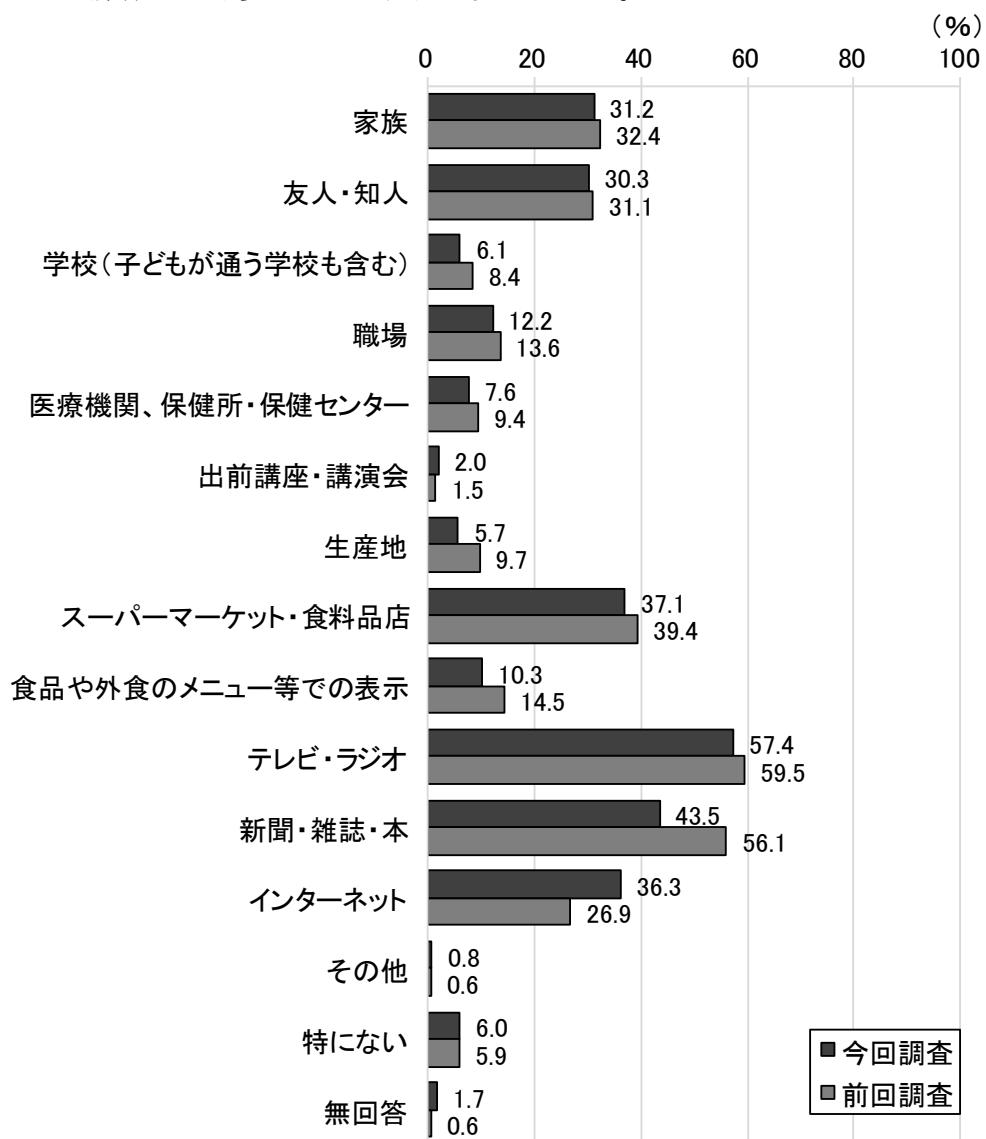
【性別にみる食生活で力を入れていること】

食生活で特に力を入れていることをみると、「栄養バランスのとれた食事の実践」が男性・女性ともに最も高くなっているが、男性が48.5%、女性が64.2%となっており15ポイント以上の差がみられる。その他の項目でも女性の割合の方が高くなっているが、「特にない」では男性の方が女性の6.3%よりも高く15.6%となっている。全体を通して、男性は女性に比べ食生活で力を入れている割合が少なく、性別による差がみられる。



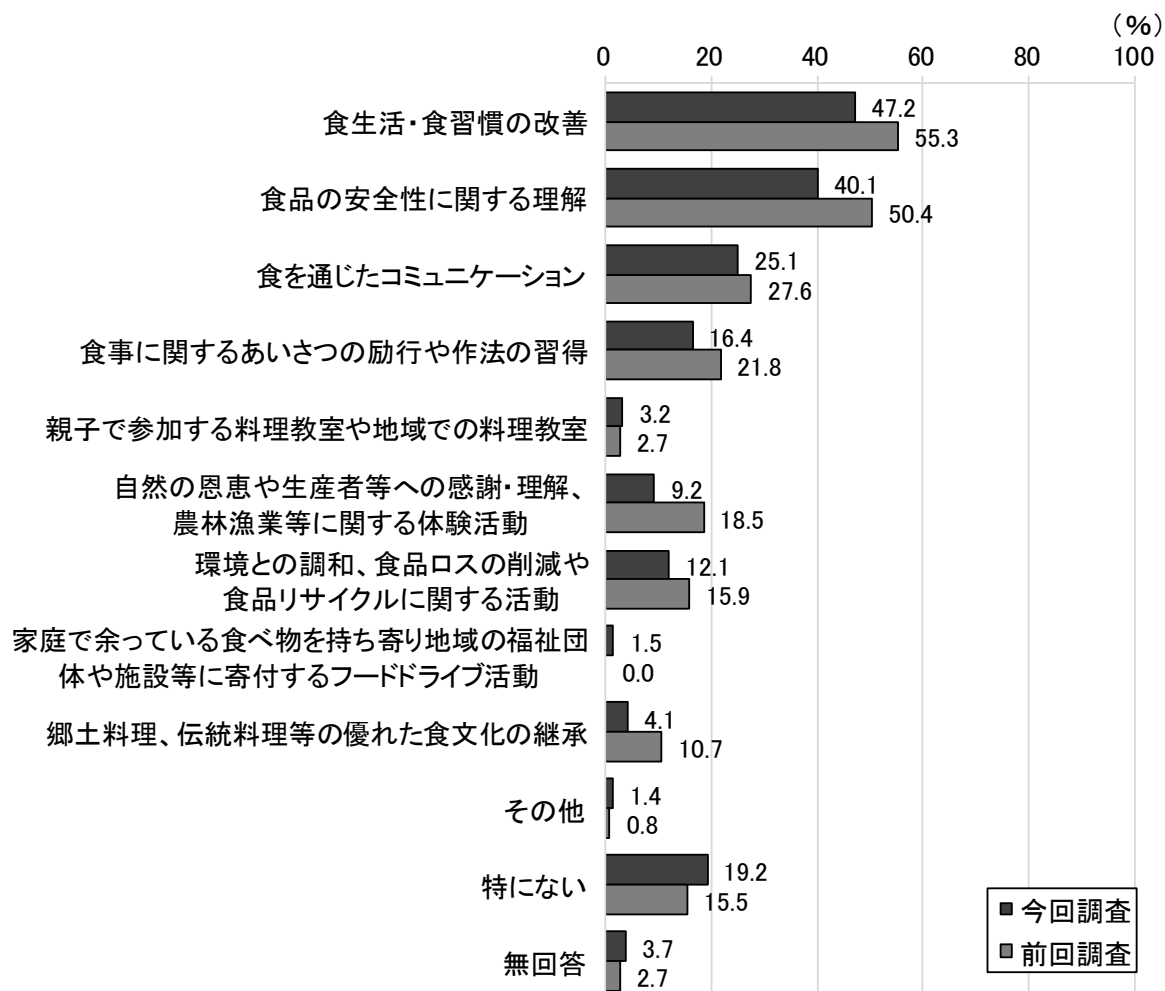
問 38 食に関する情報をどこから入手していますか。

食に関する情報の入手先をみると、「テレビ・ラジオ」が 57.4%で最も高く、ついで「新聞・雑誌・本」が 43.5%、「スーパーマーケット・食料品店」が 37.1%となっている。前回調査と比較すると、「新聞・雑誌・本」といった紙媒体からの情報収集の割合が大きく減少し、「インターネット」といった電子媒体からの情報収集の割合が増加している。ただし、紙媒体を利用して情報を入手している人の方が電子媒体よりも多いことは前回と変わらない。



問 41 食育には様々な内容が含まれますが、どの分野を重点的に取り組んでいますか。

食育について重点的に取り組んでいる分野をみると、「食生活・食習慣の改善」が 47.2%で最も高く、ついで「食品の安全性に関する理解」が 40.1%、「食を通じたコミュニケーション」が 25.1%となっている。これは前回調査と同様の傾向を示しているが、「食生活・食習慣の改善」、「食品の安全性に関する理解」では、その割合が減少している。



※「家庭で余っている食べ物を持ち寄り地域の福祉団体や施設等に寄付するフードドライブ活動」は、今回調査から追加された選択肢となっている。

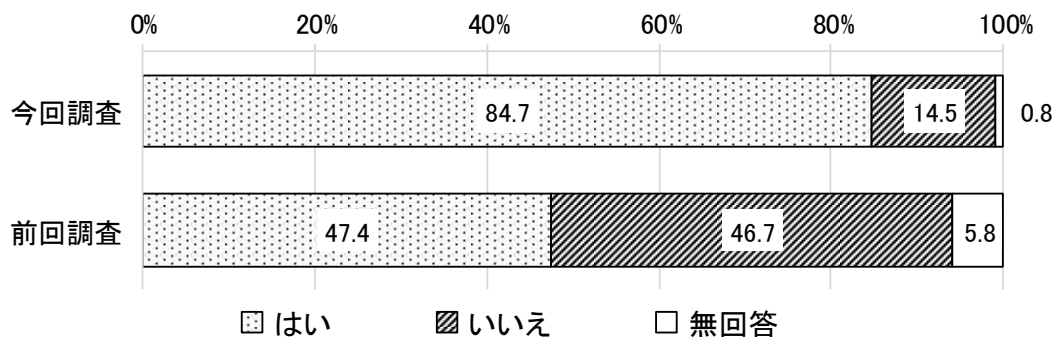
食育に関するアンケート調査結果(3歳児健診)

第3次計画の策定にあたり、7月中旬～8月中旬を調査期間として、3歳児健診を受診したお子さんの保護者を対象にアンケート調査を実施した。対象者133名のうち125名から回答を得た。

子どものこと

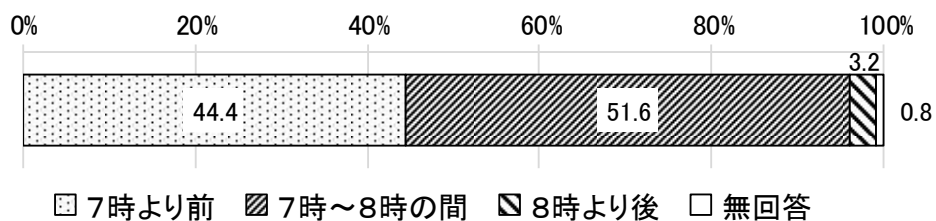
問1 入園していますか。

入園している子どもの割合が84.7%となっており、前回調査から40ポイント以上増加している。



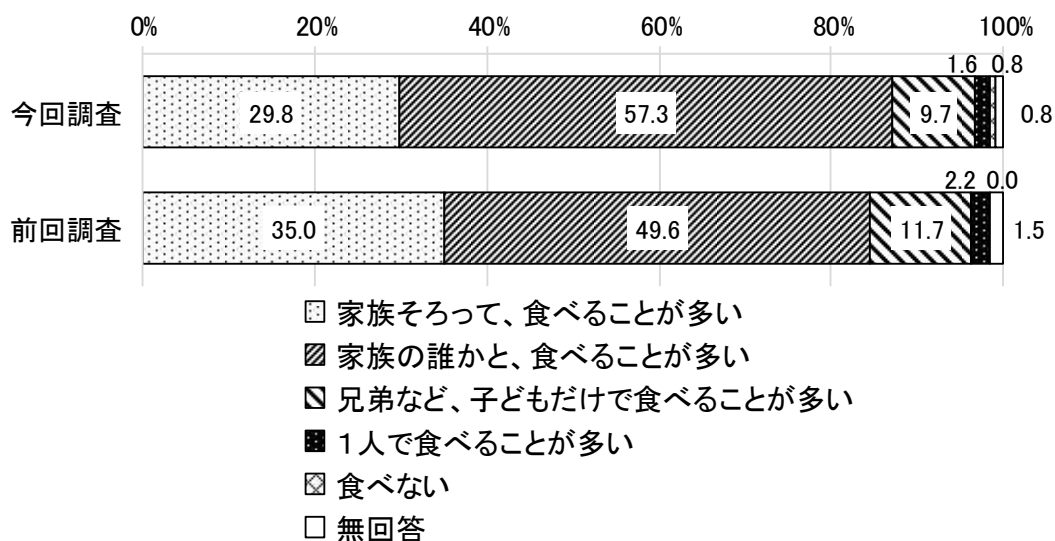
問2 お子さんは毎日、朝何時に起きますか。

子どもの起床時間は「7時より前」が44.4%、「7時～8時の間」が51.6%となっている。



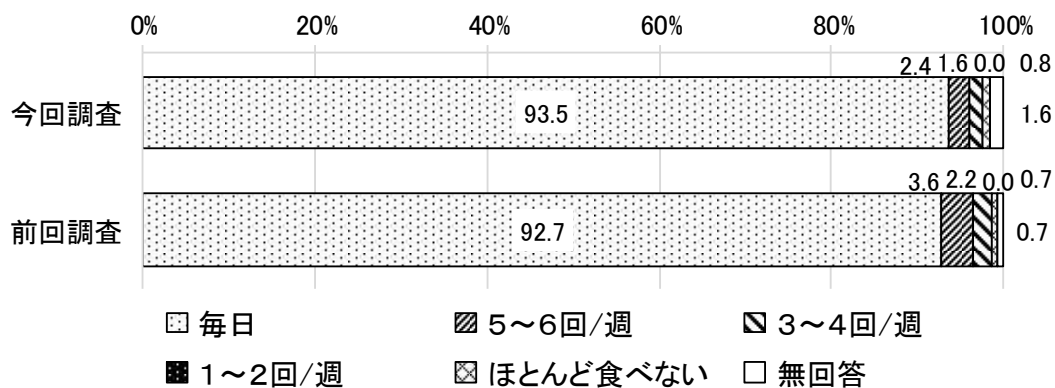
問3 朝食は誰と一緒に食べますか。

「家族そろって、食べることが多い」が29.8%と前回調査の35.0%から減少している一方で、「家族の誰かと、食べることが多い」が57.3%で前回調査の49.6%から増加している。孤食については前回調査から大きな変化はみられない。



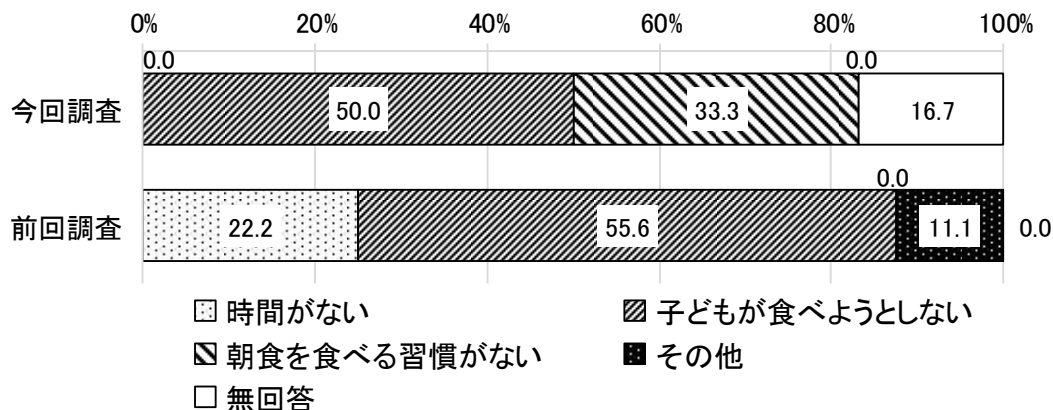
問4 お子さんは朝食を週に何回ぐらい食べますか。

毎日朝食を食べている子どもの割合は、93.5%となっており、前回調査の92.7%からおおむね横ばいとなっている。



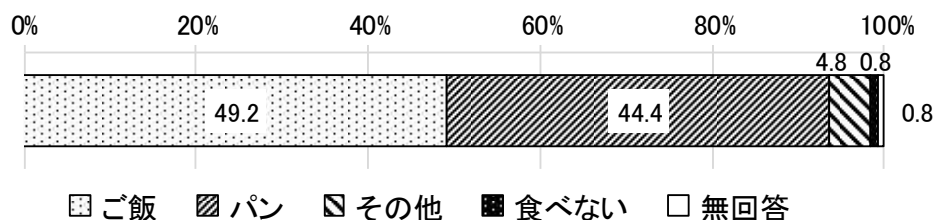
問 4-1 問4で「5～6回／週」「3～4回／週」「1～2回／週」「ほとんど食べない」と答えた方におたずねします。その理由は何ですか。

朝食を食べない日がある理由として、「子どもが食べようとしない」や「朝食を食べる習慣がない」が挙げられている。



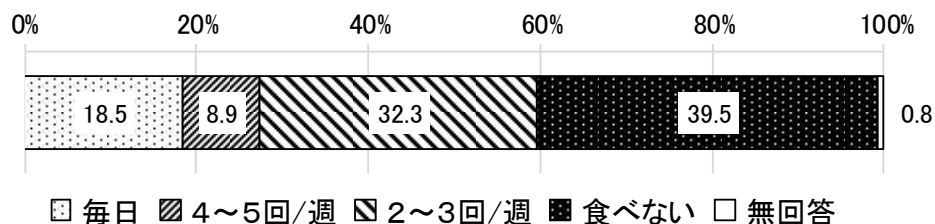
問5 朝食の主食は主に何ですか。

朝食の主食は「ご飯」が49.2%、「パン」が44.4%となっている。



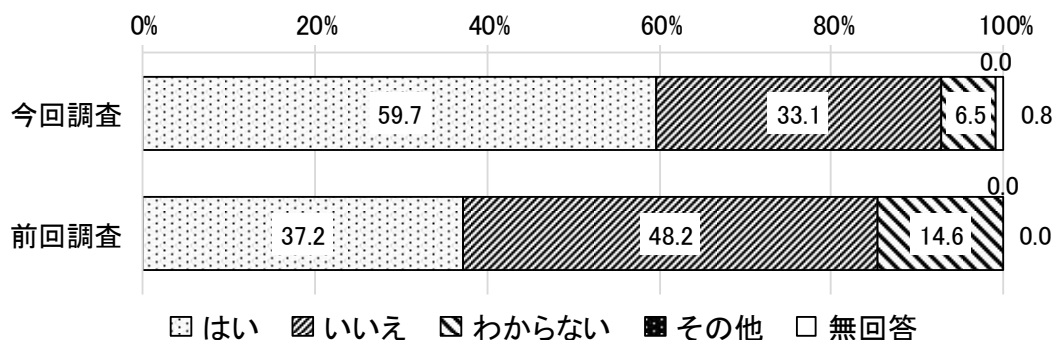
問6 朝食で野菜(果物は除く)を週に何回ぐらい食べていますか。

朝食で野菜を毎日食べるのは18.5%にとどまっており、食べない割合が39.5%で最も高くなっている。



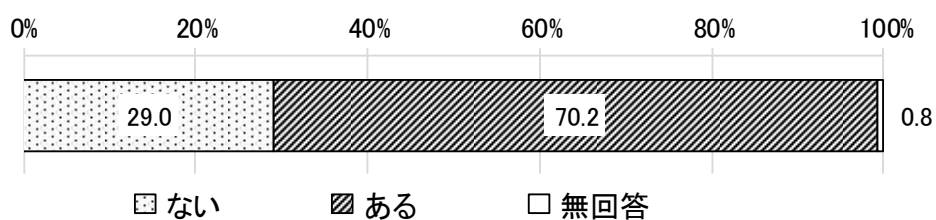
問7 食事中にお茶などの飲み物がなくても食べられますか。

お茶などの飲み物がなくても食べられる子どもの割合は59.7%となっており、前回調査の37.2%から20ポイント以上増加している。食事を飲み物で流し込むことで、子どものあごの発達や歯並びへの影響や歯肉炎になることが増えているため、飲み物で流しこまずにしっかり噛んで食べる習慣を定着させることが重要である。引き続き、しっかり噛んで食べる習慣の定着に向けた施策を継続することが求められる。



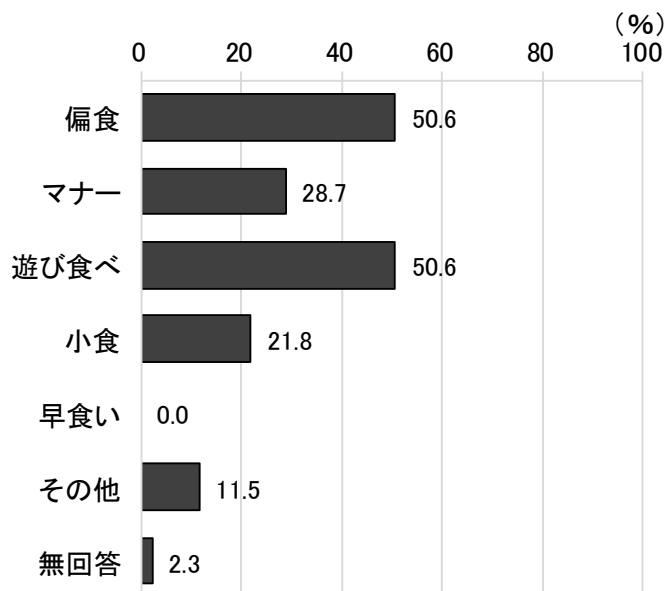
問8 食事について困っていることはありますか。

子どもの食事について困っていることがある人の割合は、70.2%となっている。



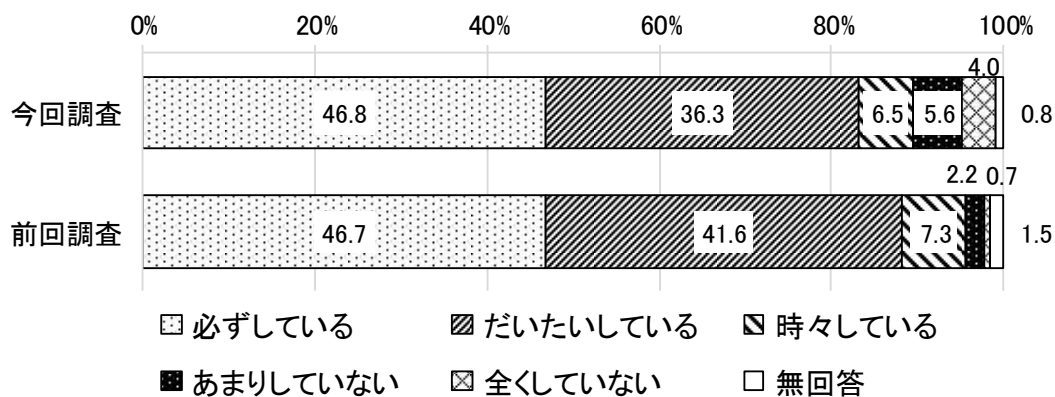
問 8-1 問8で「2. ある」と答えた方におたずねします。それは何ですか。

子どもの食事について困っていることの内容をみると、「偏食」及び「遊び食べ」が最も高くなっており、いずれも 50.6%となっている。



問9 食事の際に「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをしていますか。

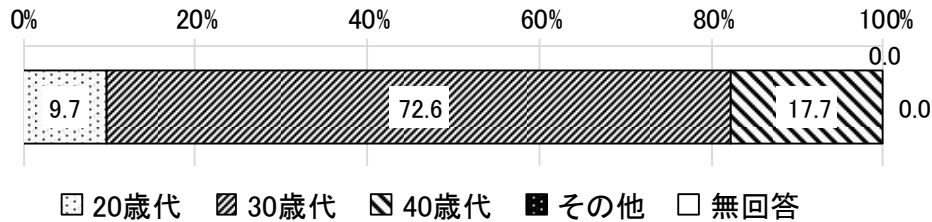
食事の際にあいさつをしている人の割合（「必ずしている」「だいたいしている」「時々している」の合計）は 89.6%となっており、前回調査の 95.6%から減少している。



保護者のこと

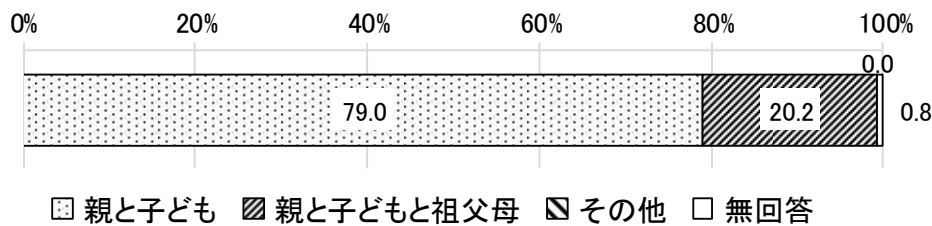
問1 あなたの年齢は何歳代ですか。

保護者の年代は「20 歳代」が 9.7%、「30 歳代」が 72.6%、「40 歳代」が 17.7%となっている。



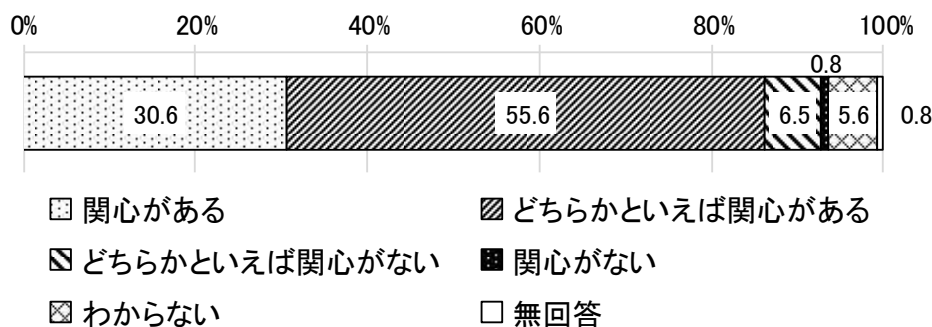
問2 世帯構成はどれですか。

世帯構成は「親と子ども」が 79.0%、「親と子どもと祖父母」が 20.2%となっている。



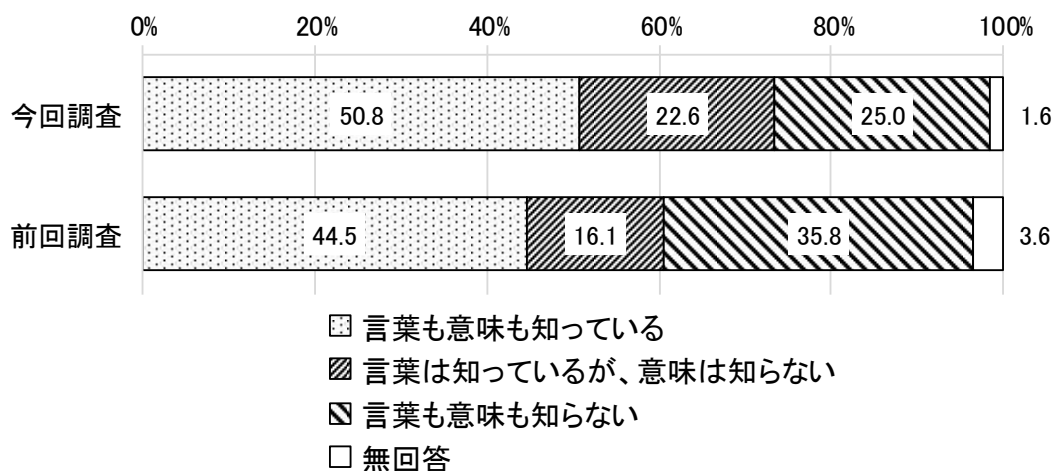
問3 「食育」に関心はありますか。

食育に関心のある保護者の割合（「関心がある」「どちらかといえば関心がある」の合計）は、86.2%となっている。



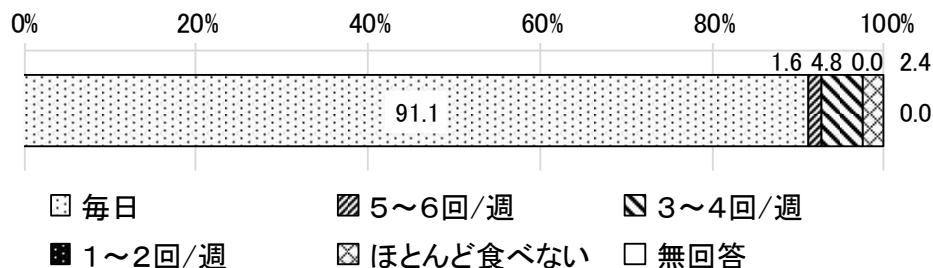
問4 豊川市がすすめる「手ばかり(自分にあった食事の適量は自分の手の大きさが目安になるということ)」を知っていますか。

手ばかりを知っている人の割合は 73.4%となっており、意味まで知っている人の割合は 50.8%となっている。手ばかりの認知度は前回調査から 10 ポイント以上増加しており、意味まで知っている人も前回調査の 44.5%から増加しており、「手ばかり」の意義が徐々に浸透していることがうかがえる。



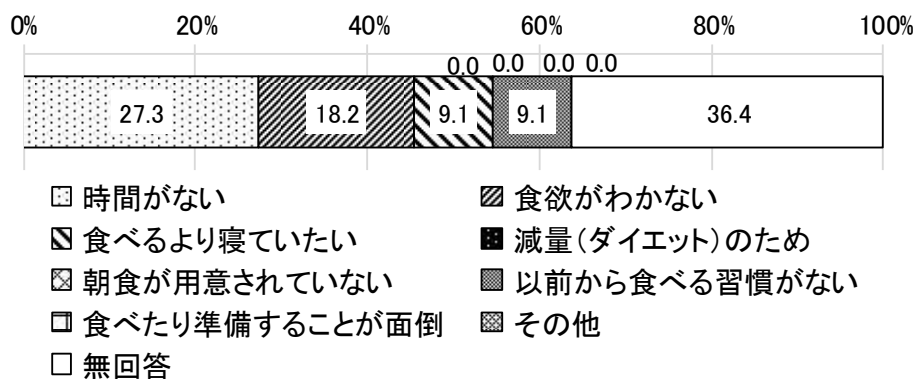
問5 朝食を週に何回食べますか。

朝食を毎日食べる人の割合は 91.1%となっている。



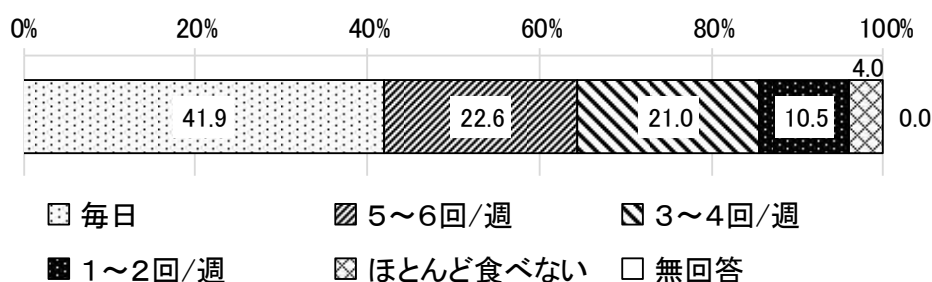
問 5-1 問5で「5～6回／週」「3～4回／週」「1～2回／週」「ほとんど食べない」と答えた方におたずねします。その理由は何ですか。

朝食を食べない日がある理由として、「時間がない」や「食欲がわからない」などが挙げられている。



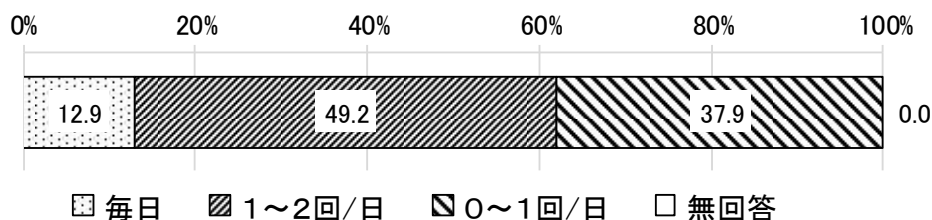
問6 主食・主菜・副菜を3つそろえて食べることが1日に2回以上あるのは週に何日ありますか。

主食・主菜・副菜の3つをそろえて食べることが1日に2回以上ある人の割合は「毎日」が41.9%と最も高くなっている。



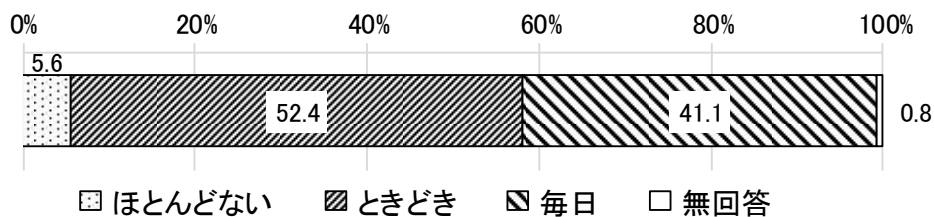
問7 野菜が主の料理(おひたし、野菜炒め)を1日にだいたい何回食べますか。

野菜が主の料理を1日に食べる回数は、「毎食」が12.9%、「1～2回/日」が49.2%、「0～1回/日」が37.9%となっている。



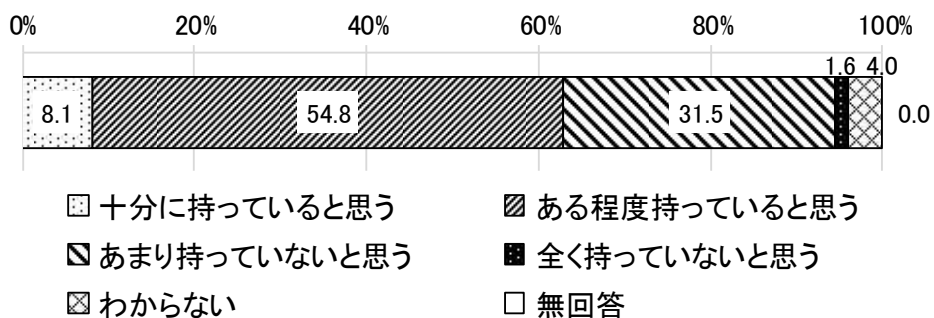
問8 朝・昼・夕の食事以外に、間食や甘い物を摂取していますか。

食事以外の間食や甘い物の摂取状況は、「ときどき」が52.4%で最も高く、ついで「毎日」が41.1%、「ほとんどない」が5.6%となっている。



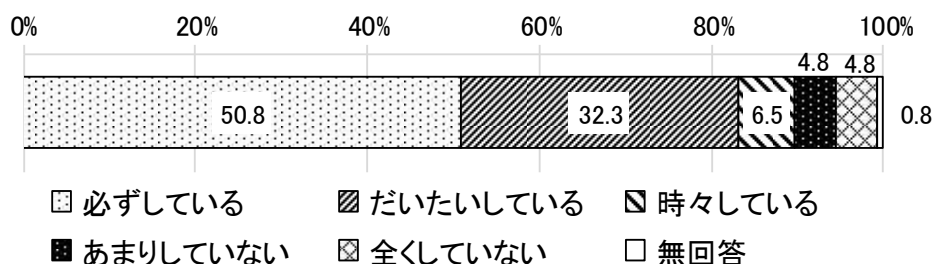
問9 食品の安全に関する知識を持っていると思いますか。

食品の安全に関する知識を持っていると思う人の割合（「十分に持っていると思う」「ある程度持っていると思う」の合計）は、62.9%となっている。



問 10 食事の際に「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをしていますか。

食事の際にあいさつをしている人の割合（「必ずしている」「だいたいしている」「時々している」の合計）は 89.6% となっている。



問 11 お子さんが楽しく食事をするために、あなたが大切にしていることはどんなことですか。

豊川市の食育について 82 件のご意見をいただいた。できる限り原文に忠実に記述しているが、不適切な表現は一部修正している。また、誤字等についても修正している。

番号	項目	件数
1	家族と一緒に食事をする	25 件
2	会話をしながら楽しく食事をする	18 件
3	盛り付けを工夫する	14 件
4	楽しい雰囲気づくりをする	9 件
5	メニューを工夫する	5 件
6	あいさつをしっかりとする	3 件
7	その他	8 件
合計		82 件

回答詳細

1. 家族と一緒に食事をする（25 件）

- みんなで食事をすることです
- 一緒にご飯を食べる。
- 家族がそろっておいしく食べること
- みんなで食べる
- 一緒に食べる
- 一緒に食事をする
- ひとりで食べないで、誰かと必ず食べる。
- 時間がなくても、食べるときはちゃんと一緒に食べるようにしている。
- みんなで(家族) なるべく食べる。
- 出来る限り家族そろって食べるようにしている。
- 家族皆で一緒に食べる
- みんなそろって食べるようにしている。
- 一緒にたべること

- 一人だけで食べない事
- みんなで食べる
- 家族みんな揃って食事をする
- 一緒に食べる
- 1人で食べさせない。
- 大人も楽しく食事をする
- 一緒に座って食べる。
- できるだけ家族の誰かと食べるようにしている
- 家族揃って食べる
- 一緒に食べる
- 子どもと一緒に食べることが一番。
- 必ず大人と一緒に食べる

2. 会話をしながら楽しく食事をする（18件）

- 嫌いなものは少しずつ食べてもらえるよう声をかけたり手伝ったりする。無理しない。
- テレビはつけずに会話をするようにしている。
- 会話をする。
- おはなしをいっぱいすること
- 嫌いなものを食べたら必ずほめている
- 今日のできごとなどを聞いて会話を楽しむようにしている。
- 今日のあった事をみんなで話す。
- 必ず何人かで食事をして、会話をする様にしています。
- 食事をしているときに「上手に」食べられるね等の声かけをたまにする
- TVを消して会話を楽しむ
- その日にあった出来事などを話しながら食べる
- 会話
- 親と一緒に食事をして、この野菜おいしいねと子どもと共感しながら食べること
- おしゃべりしながら食べる
- 好きなもの以外は積極的に食べないので、おいしいねと声をかけながら一緒に食べるようにしています。
- 話をしながら食事をしている
- 今日あった事を話しながら食事をする
- その中で色々な話をすることを大切にしています。

3. 盛り付けを工夫する（14件）

- 盛り付け方
- 色どり、味付け
- 野菜を動物の形にしたり、ご飯をかわいく盛りつけたり、少しでも楽しめるようにしたいです。
- 色どりよく、食欲がでるようにしてたくさんいろいろ食べてもらえるようにしています。
- 盛り付けを時間があるときは、可愛くして、見た目でも楽しく食べられるようにする。
- 本人が食べやすい大きさに切ったり、量も完食が出来る量にして、おかわりをさせて食事量は気を付けている。使う食器や箸も本人に合ったものを用意して食事をしています。

- 野菜を食べてもらえるようくふうして、好きなお皿によそっていること。
- 色どりを考える事 自分のお皿を用意する（お気に入りの）
- お弁当の時などは、キャラ弁にして楽しく食べられるようにしている。
- 好きなコップやスプーンなどを使うようにしている。ご飯茶碗は全部食べると絵が出るようなもので、楽しくなるようにしている。
- 盛り付け、色合いを美しく
- 子どもに食器を選んでもらう
- 色どりを良くする。
- キャラ弁みたいに見た目を少しでもよく見せられるようにしている

4. 楽しい雰囲気づくりをする（9件）

- ご飯が楽しく食べられるような雰囲気、環境を整えること。
- 笑顔で明るい食卓を心がける。トラブルのもとになるようなものを持ち込まない。
- 雰囲気
- あまりおこらないようにする。イスから立たないようにする。
- 楽しい雰囲気づくり（好きな物がある ○○と一緒になど）
- あまり厳しく注意しないようにしている
- あまり怒らない
- 苦手なものを一口でも食べられたら、ほめてあげている
- おいしいねと盛り上げる。

5. メニューを工夫する（5件）

- 好きなメニューを1品は出す
- 好きそうなものを1つは入れるようにしている
- メニューの工夫
- メニューの工夫など飽きないようにする（おにぎりにしたり、ふりかけにしたり変化をつける）
- 好きなものを1つは入れる

6. あいさつをする（3件）

- あいさつをする
- あいさつはする
- いただきます、ごちそうさまをしっかりとと言えること

7. その他

- 一緒にご飯を作ったりする。
- できるだけ食べやすくしている。
- 作る過程を見せる、材料から見せて説明する
- 食事に興味を持ってもらえるようにする
- 畑で野菜を育てています
- 3食ちゃんと食べる
- おやつは時間を決めて、ご飯が食べられるようにする
- 手作り

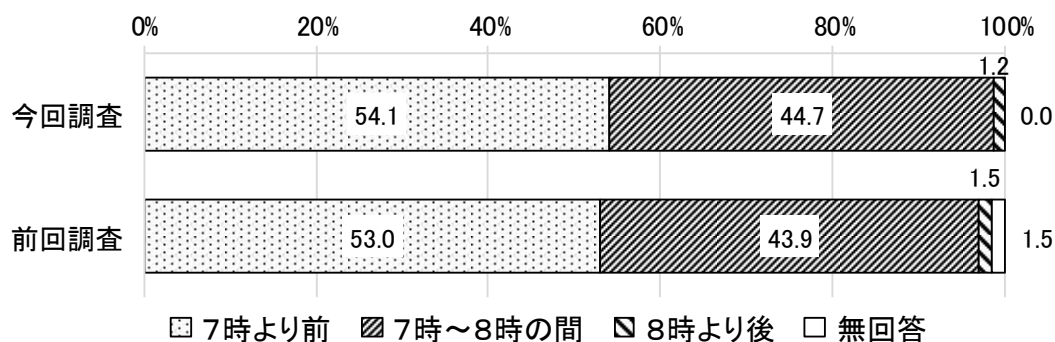
食育に関するアンケート調査結果(保育園)

第3次計画の策定にあたり、7月中旬～8月中旬を調査期間として、保育園に通うお子さんの保護者を対象にアンケート調査を実施した。対象者144名のうち85名から回答を得た。

子どものこと

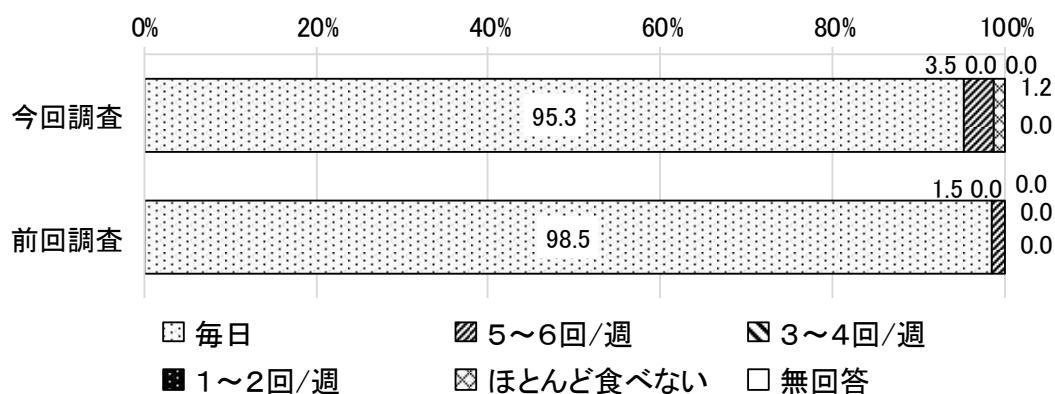
問1 お子さんは毎日、朝何時に起きますか。

子どもの起床時間は「7時より前」が54.1%、「7時～8時の間」が44.7%、「8時より後」が1.2%となっている。前回調査と比較するとおおむね同様の傾向を示しており、大きな差はみられない。



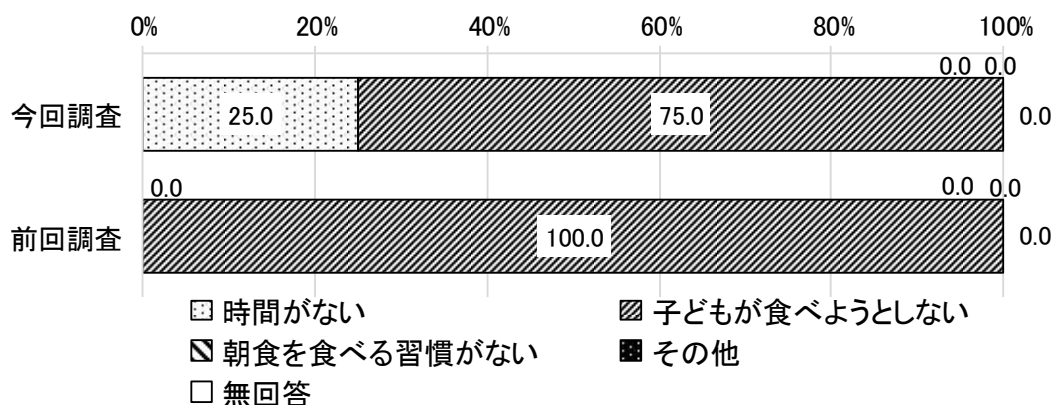
問2 お子さんは朝食を週に何回ぐらい食べますか。

毎日朝食を食べている子どもの割合は95.3%となっており、前回調査の98.5%から減少している。



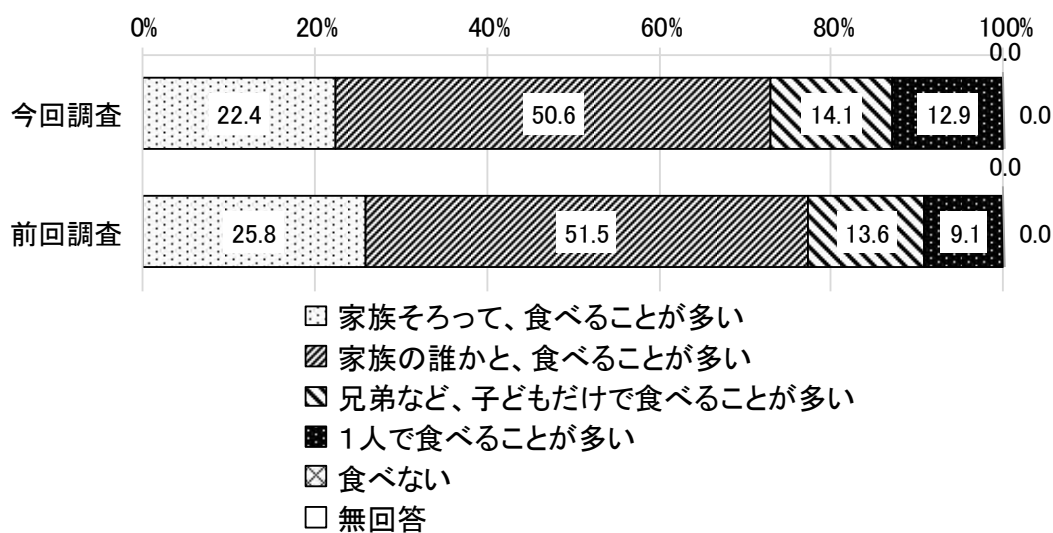
問 2-1 問2で「5～6回／週」「3～4回／週」「1～2回／週」「ほとんど食べない」と答えた方におたずねします。その理由は何ですか。

朝食を食べない日がある理由として、「時間がない」「子どもが食べようとしなない」が挙げられている。



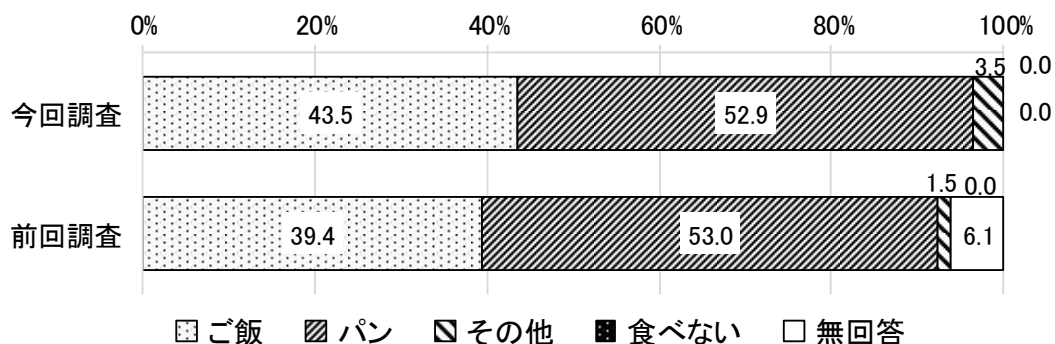
問3 朝食は誰と一緒に食べますか。

「家族の誰かと、食べることが多い」が50.6%で最も高く、ついで「家族そろって、食べることが多い」が22.4%、「兄弟など、子どもだけで食べるが多い」が14.1%となっている。前回調査と比較すると、「家族そろって、食べることが多い」が減少し、「1人で食べるが多い」が増加しており、孤食が進んでいる状況がうかがえる。



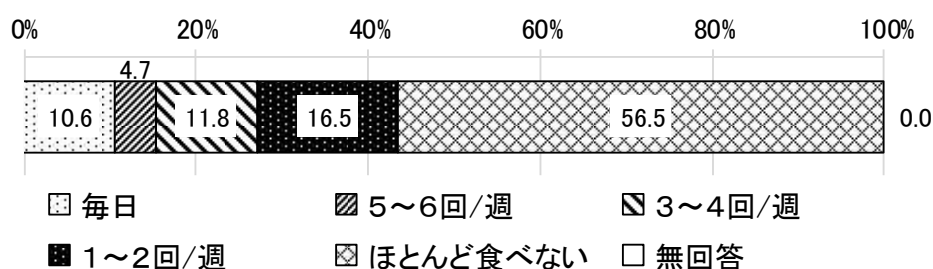
問4 朝食の主食は主に何ですか。

朝食の主食は「ご飯」が43.5%、「パン」が52.9%となっており、前回調査から「ご飯」が増加している。



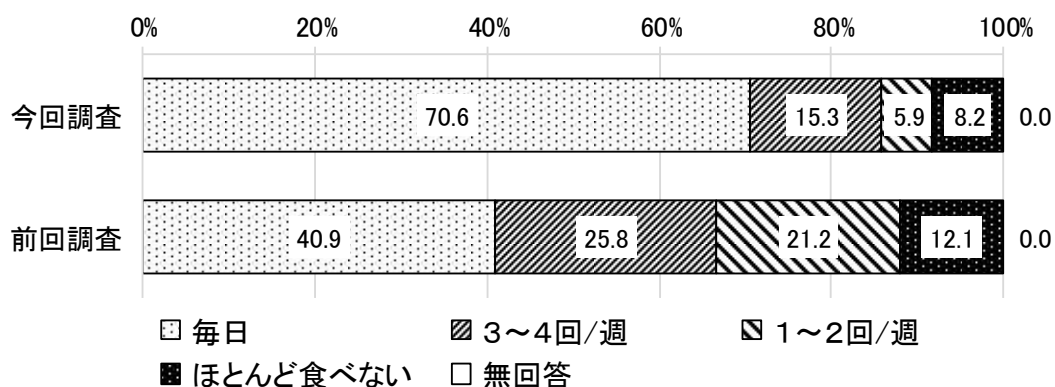
問5 朝食で野菜(果物は除く)を週に何回ぐらい食べていますか。

朝食で野菜を毎日食べるのは10.6%となっている一方で、半数以上の56.5%が「ほとんど食べない」としている。



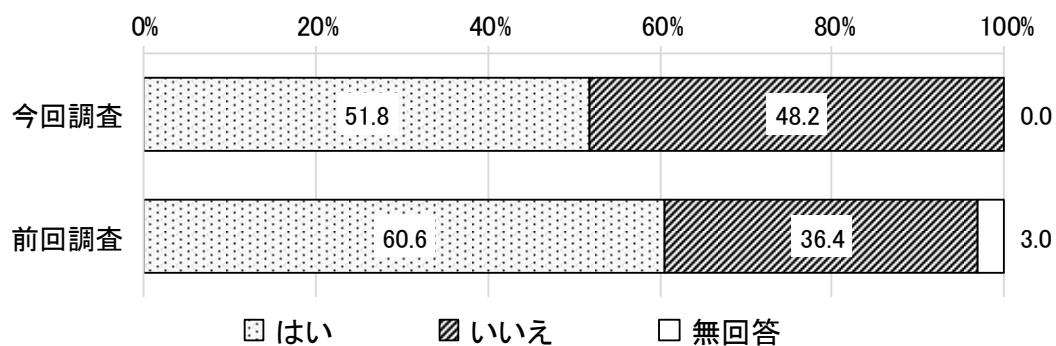
問6 降園後、家庭で間食を週に何回食べますか。(土、日曜日を含まない。保育園での時間外おやつは含める。)

家庭で毎日間食を食べる子どもの割合は70.6%となっており、前回調査の40.9%からおおよそ30ポイント増加している。一方で「3～4回/週」「1～2回/週」「ほとんど食べない」が減少していることから、間食を食べる頻度が多くなっていることがうかがえる。



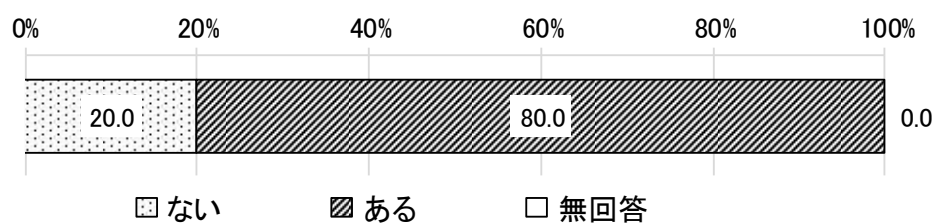
問7 家庭での間食の時間は決めていますか。

家庭での間食の時間を決めている割合は 51.8%となっており、前回調査の 60.6%から減少している。間食の頻度は多くなっている一方で、時間帯については決まりがない場合が多くなっている。



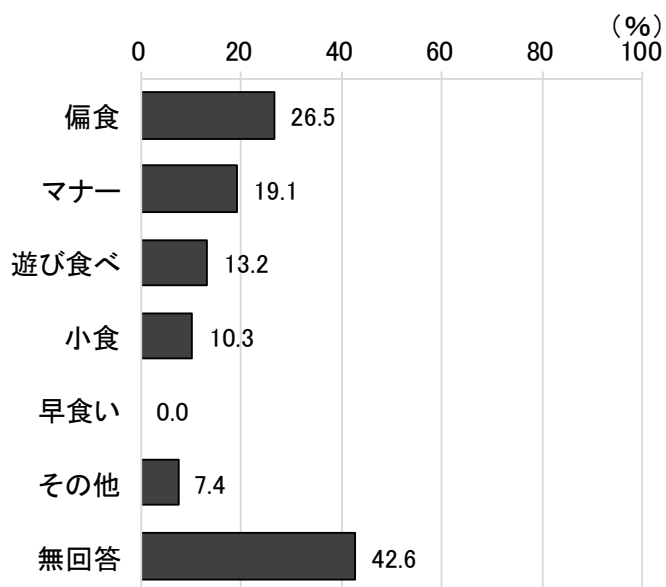
問8 食事について困っていることはありますか。

子どもの食事について困っていることがある人の割合は、80.0%となっている。



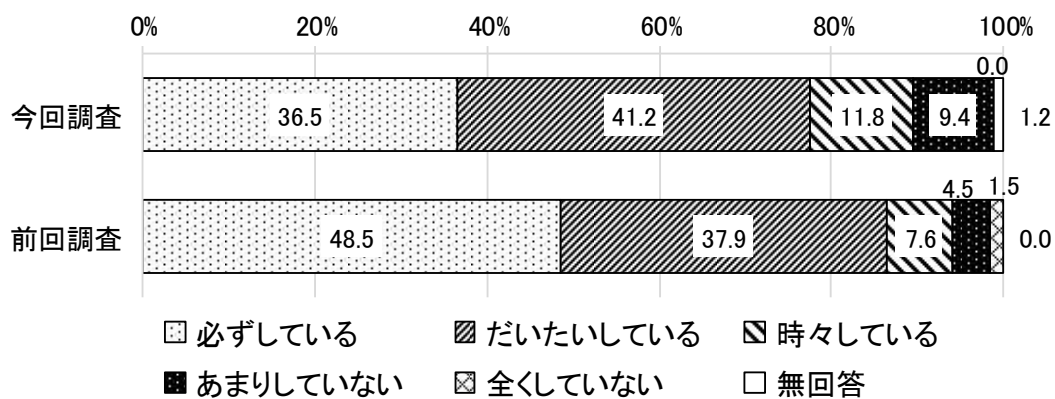
問 8-1 問8で「2. ある」と答えた方におたずねします。それは何ですか。

子どもの食事について困っていることの内容をみると、「偏食」が最も高く 26.5%となっている。



問9 食事の際に「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをしていますか。

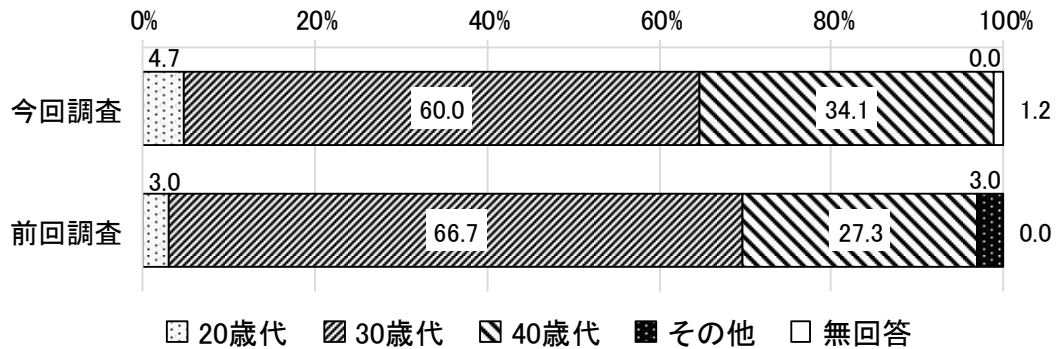
食事の際にあいさつをしている人の割合（「必ずしている」「だいたいしている」「時々している」の合計）は 89.5%となっており、前回調査の 94.0%から減少している。



保護者のこと

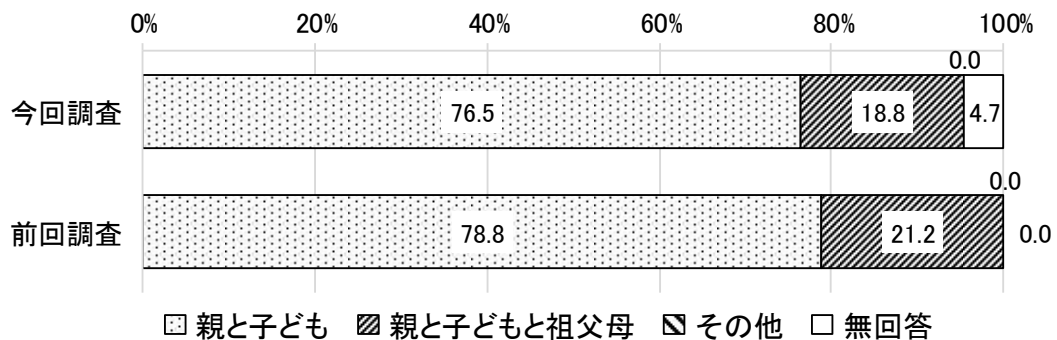
問1 あなたの年齢は何歳代ですか。

保護者の年代は「20 歳代」が 4.7%、「30 歳代」が 60.0%、「40 歳代」が 34.1%となっている。



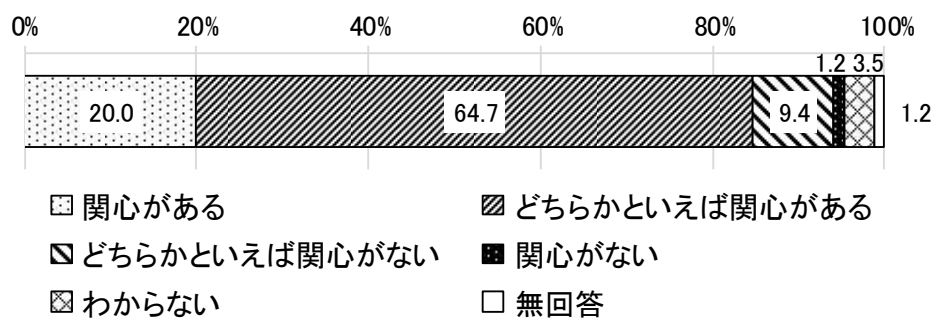
問2 世帯構成はどれですか。

世帯構成は「親と子ども」が 76.5%、「親と子どもと祖父母」が 18.8%となっている。



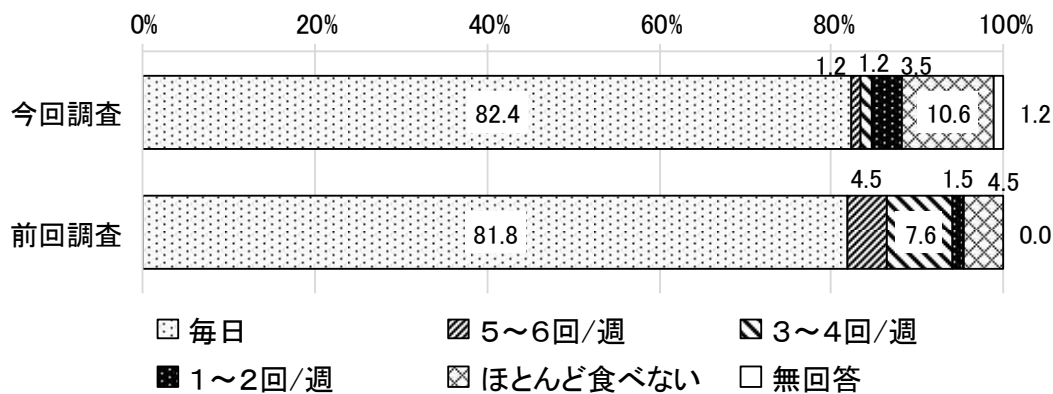
問3 「食育」に関心はありますか。

食育に関心のある保護者の割合（「関心がある」「どちらかといえば関心がある」の合計）は、84.7%となっている。



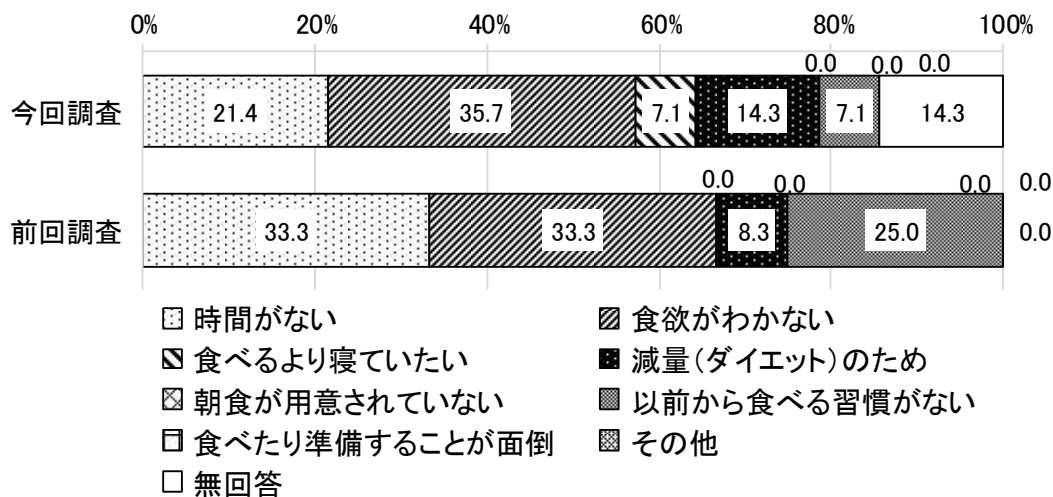
問4 朝食を週に何回食べますか。

朝食を毎日食べる人の割合は 82.4%となっている。前回と比較するとおおむね横ばいとなっている。ただし、前回調査から「ほとんど食べない」が増加している。



問 4-1 問4で「5～6回/週」「3～4回/週」「1～2回/週」「ほとんど食べない」と答えた方におたずねします。その理由は何ですか。

朝食を食べない日がある理由として、「時間がない」や「食欲がわからない」が多く挙げられている。これらは前回と同様の傾向となっている。一方で、「以前から食べる習慣がない」が前回調査から減少している。



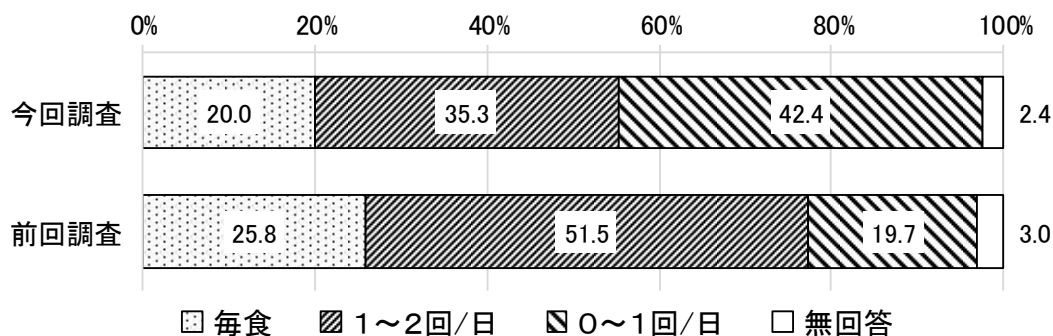
問5 主食・主菜・副菜を3つそろえて食べることが1日に2回以上あるのは週に何日ありますか。

主食・主菜・副菜の3つをそろえて食べることが1日に2回以上ある人の割合は「毎日」が24.7%と最も高くなっている一方で、「ほとんど食べない」も14.1%となっている。



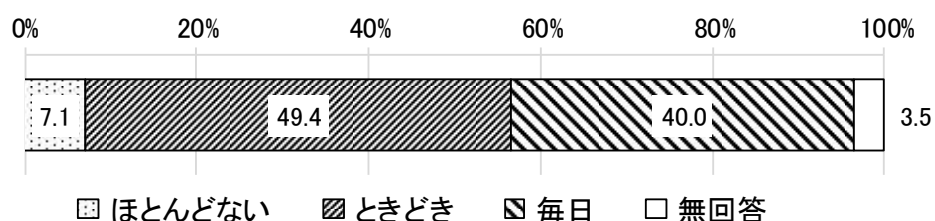
問6 あなたは野菜が主の料理(おひたし、野菜炒め)を1日にだいたい何回食べますか。

野菜が主の料理を1日に食べる回数は、「毎食」が20.0%、「1～2回/日」が35.3%、「0～1回/日」が42.4%となっている。前回調査と比較すると、「毎食」と「1～2回/日」の割合が減少している一方で、「0～1回/日」が増加していることから、野菜が主の料理を食べる頻度が減少していることがうかがえる。



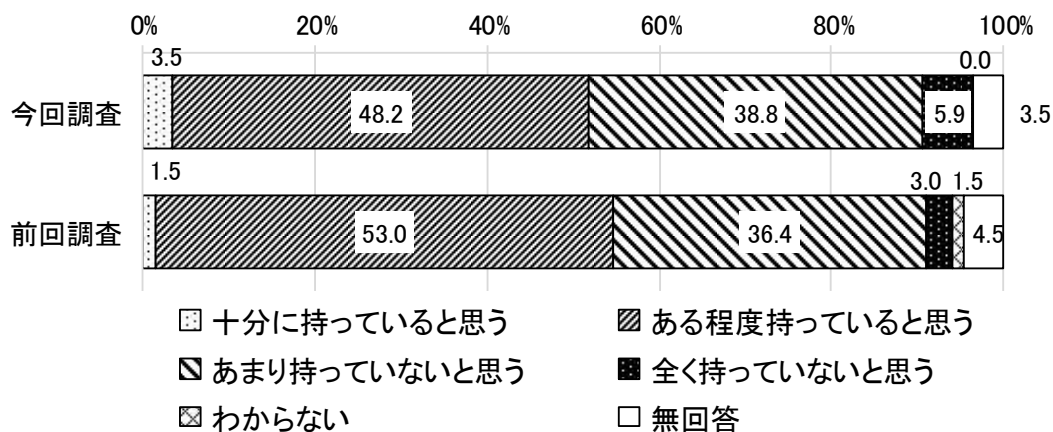
問7 あなたは朝・昼・夕の食事以外に、間食や甘い物を摂取していますか。

食事以外の間食や甘い物の摂取状況は、「ときどき」が49.4%で最も高く、ついで「毎日」が40.0%、「ほとんどない」が7.1%となっている。



問8 食品の安全に関する知識を持っていますか。

食品の安全に関する知識を持っていますと思う人の割合（「十分に持っていますと思う」「ある程度持っていますと思う」の合計）は 51.7% となっており、前回調査からおおむね横ばいで推移している。



問9 食事の際に「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをしていますか。

食事の際にあいさつをしている人の割合（「必ずしている」「だいたいしている」「時々している」の合計）は 88.3% となっている。前回調査と比較すると、おおむね横ばいで推移しているが、「必ずしている」の割合をみると 10 ポイント以上減少している。

